

組合創設 50 周年記念誌

1971-2021

石狩北部地区消防事務組合

th

組合創設 50 周年記念誌

石狩北部地区消防事務組合

th

総目次

はしがき..... 1

あいさつ

石狩北部地区消防事務組合 管理者..... 2

石狩北部地区消防事務組合 議会議長..... 3

石狩北部地区消防事務組合 消防長..... 4

石狩北部地区消防事務組合 当別消防団長..... 5

石狩北部地区消防事務組合 新篠津消防団長..... 6

石狩北部地区消防事務組合 石狩消防団長..... 7

祝辞

当別町長..... 8

新篠津村長..... 9

第 1 章 組織概要

管内図..... 13

消防の組織、機構..... 14

役職者名簿..... 16

歴代管理者、議会議長、消防長..... 18

職員の配置状況..... 20

消防団員実員数及び配置表..... 21

第 2 章 沿革

石狩北部地区消防事務組合 50 年のあゆみ 25

第 3 章 各種業務	
救急編.....	63
救助編.....	68
警防編.....	73
消防団編.....	78
通信指令編.....	84
予防編.....	89
第 4 章 消防施設、消防車両	95
編集後記.....	124

は し が き

この記念誌は、昭和 46 年から令和 3 年 3 月 31 日現在までの石狩北部地区消防事務組合の 50 年における現勢及び消防事務のあらましを収録したものです。

本記念誌を発行するにあたり、地域住民の消防行政への関心を高めるために役立ちその理解と協力を得ることができれば幸いです。

今後も流動する社会経済及び生活環境の変化に伴う消防体制の確立と、各種災害に迅速・的確に対応するため、消防・救急体制の充実強化を図り、より一層我々消防職、団員は住民各位の負託に応えるべく職務に精進する所存であります。

石狩北部地区消防事務組合消防本部

あいさつ



石狩北部地区消防事務組合

管理者 加藤 龍幸

このたび、石狩北部地区消防事務組合が創設 50 周年という大きな節目の年を迎えることとなりました。

創設以来、当組合の消防行政の発展にご尽力を賜りました皆様に衷心より感謝申し上げます。

当組合は、昭和 46 年 4 月、当別町、新篠津村、厚田村、浜益村の 1 町 3 村による組合消防組織として発足しました。さらに昭和 47 年には石狩町が加入し、以後、組織体制、施設整備等を含む消防力の強化を進め、半世紀を経て 1 消防本部・3 消防署・3 支署、職員数 189 名を有する消防事務組合へと発展してまいりました。

また、消防団につきましては、「自らの地域は自ら守る」という誇り高い理念のもとに 472 名の団員により組織され、常備消防と一体となり地域の防火・防災活動に多大なご活躍を頂いております。

近年の災害状況は大規模地震をはじめ、局地的集中豪雨による水災害や土砂災害などの自然災害が全国各地で頻発しており甚大な被害をもたらしている状況です。加えて、新型コロナウイルス感染症への対策は危機管理上重大な課題であるとの認識の下、住民の生命・身体そして財産を守るため、当組合においても関係機関との連携・協力を密にしてこの難局を乗り越えていかなければなりません。

こうした中、当組合に課せられる使命は一層重きが置かれるものと考えており、住民の皆様からの負託に応えるべく、各種災害に対応するための組織体制の強化、活動体制の整備、社会情勢等の変化に対応した予防対策等の推進など様々な課題に対して、一丸となって尽力してまいり所存であります。

結びに、今日まで深いご理解とご支援を賜りました地域住民の皆様方に心から感謝申し上げ、本地区が安全安心で住みよい街となりますよう、今後ともご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

組合創設 50 周年を迎えて



石狩北部地区消防事務組合

議会議長 蜂谷 三雄

石狩北部地区消防事務組合が創設から記念すべき 50 周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

奇しくも記念の節目と重なるように、人類がこれまで遭遇したことがない「災害」とも言える新型コロナウイルス感染症の感染危険に立ち向かい救急救命活動に当たられている職員の皆様への労いと、不幸にして亡くなられた方、闘病中の方に心からお悔やみとお見舞いを申し上げ、一刻も早い収束を願っております。

顧みますと、昭和 46 年 4 月に、石狩北部地区消防事務組合が創設されて半世紀。当時は高度経済成長真只中であって地方公共団体の行政事務の増大に広域で対応していく時代の要請が背景にありました。構成団体 2 町 3 村の当初の人口は約 4.5 万人、一次産業主体から宅地開発や港湾・工業団地開発と大きく地域が変貌していくなかで、消防署所の整備や消防車両をはじめ資機材の充実など消防力の強化が図られ、近代消防体制の整備が進められてきました。

平成の合併を経て今日、一市一町一村約 8 万住民の生命、身体、財産を火災や災害から守るために、職員の皆様が消防団と協働し日夜勤務に精励されております。また、各幼年少年婦人クラブや石狩北部危険物安全協会などの皆様の日頃からの熱心な火災予防活動をはじめ、設立以来消防活動にご尽力いただいた方々に、心から敬意を表ますとともに感謝申し上げます。

近年、社会情勢の変化に伴い、火災や事故などの複雑多様化とあわせ、大規模地震や気候変動による記録的豪雨などの自然災害が全国各地で頻発し大きな被害をもたらしており、住民の日頃の防災への関心や消防組織への期待の一層の高まりからも、消防の果たす役割はますます重要となっております。

組合議会といたしましても、社会等の変化に対応して、住民の皆様が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進し、本消防事務組合の消防力の充実に一層努めてまいり所存でございます。

結びに、設立 50 周年を契機に石狩北部地区消防事務組合のさらなるご発展と、皆様の益々のご健勝ご活躍をお祈り申し上げ、記念誌発刊にあたってのご挨拶といたします。

組合創設 50 周年を迎えて



石狩北部地区消防事務組合
消防長 新岡 研一郎

このたび、石狩北部地区消防事務組合が創設から 50 周年を迎えられたことに心からの感謝を申し上げますとともに、先人や関係者の方々のご労苦に敬意を表します。

今日の消防体制につきましては、先人たちが幾多の災害を踏まえ、市民の安全・安心を願い、英知をしばり困難を克服し、消防・防災関係者と力を合わせて計画的に消防機動力が築かれてきたものです。

近年の消防行政を取り巻く環境は、全国各地で自然災害をはじめとする甚大な被害が発生し、さらには新型コロナウイルス感染症のパンデミックも続いており、私たちが今までに経験したことのない事態が発生しており、これらの災害から住民の「生命」・「身体」・「財産」を守るためには、これまで継承されてきた英知、情熱を結集し、地域防災力のなお一層の強化が必要であると感じております。

今後とも、各種の災害事象に即応するよう職員一同更に精進を重ね、より強固な消防防災・危機管理体制の構築、更には消防行政の機動力の向上に向けた基盤整備に、最善を尽くし献身して参りたいと考えております。

今回の発刊につきましては、石狩北部地区消防事務組合 50 周年を記念し、消防行政のあゆみ、災害事情等の変化を記し、これまで培ってきたものを改めて振り返り、将来ともに当消防本部が歩むべき姿を見定めることを目的として発刊させていただきました。

結びに、関係者みなさまのこれまでのご尽力に対しまして、改めて感謝申し上げますとともに、今後も住民の期待に応え、安全・安心な生活が営めるよう、消防体制の充実強化に努めてまいりますので、継続したご支援・ご協力をお願いいたします。

組合創設 50 周年を迎えて



石狩北部地区消防事務組合
当別消防団長 木屋路 喜代史

石狩北部地区消防事務組合創設 50 周年を迎えて、本誌が刊行されますことに、心よりお慶び申し上げます。

当別町も開基 150 周年という節目の年でもあり、開拓の礎には、日々苦難を乗り越えた先人達の強い郷土愛に培った防火防災の精神が今に至っていると思っております。

地域の災害対応から広域的災害の対応へと広域消防が発足し、50 年が経過致しました。

組合発足の節目において、総合防災訓練が実施され、常備のみならず非常備も連携強化を図っております。

近年の災害は、気候変動の影響で大規模化し、全国各地で土砂災害や河川の氾濫等が継続的に発生しており、いつ何時同様な災害が発生するか分からない時代であります。

消防団の機動力は重要であり、地域住民からも大いに期待されていると感じているところであります。

そして、昨年から続く未知の感染症が全世界を脅かし、多くの人々が感染し幾度の緊急事態宣言の発令により、国民生活への強い規制、飲食業や観光業の休業、倒産など経済発展に多大な影響が出ております。

このような感染症そして各種災害から私たち消防団員は地域住民の生命、財産を守る事が使命であり一層精進して参ります。

結びに、組合の発展に御尽力を賜りました歴代の関係者の皆様と本誌の編纂に御尽力を賜りました方々に心から感謝を申し上げますとともに、これからの防火防災対策として、消防署と連携し、更に、近隣消防団と結束を固め、安心、安全な街づくりに取り組んで参りますので、ご支援とご協力をお願い申し上げ、組合創設 50 周年を迎えての挨拶とさせていただきます。

組合創設 50 周年を迎えて



石狩北部地区消防事務組合

新篠津消防団長 山本 慎一

石狩北部地区消防事務組合が創設されて、ここに記念すべき 50 年という輝かしい節目を迎えるに当たり、消防関係の諸先輩方におかれましては、郷土愛精神のもと、地域の安全確保のため、日夜献身的にご尽力を頂いたことに対し深く心より敬意と感謝を申し上げます。また、今後とも消防防災に多大なるご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

近年、消防を取りまく環境は、救急需要の大幅な増大や局地的集中豪雨による災害が発生するなど、社会情勢の変化や異常気象に伴い災害事象は大きく変化し、これまで以上に環境は厳しく、今後ますます消防に対するニーズが高まっているものと強く認識しているところです。

このような情勢の中で、消防団と消防本部がより緊密な連携と協調を図りながら、住民に信頼され、親しまれる消防を目指すとともに、日々変化し続ける社会情勢に対応すべく積極的に消防行政を展開することに、決意を新たにす所存であります。

結びに、昭和 46 年の発足以来、住民の安全を守るため、熱意をもって消防活動にご尽力いただいた諸先輩方の輝かしい功績を讃えながら伝統を引き継ぎ、発足 50 周年を契機に、石狩北部地区消防事務組合の更なるご発展と、消防職員の皆様の一層のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、発刊に寄せる言葉とさせていただきます。

組合創設 50 周年を迎えて



石狩北部地区消防事務組合

石狩消防団長 日下部 勝義

石狩北部地区消防事務組合が創設し、本年で 50 年という輝かしい節目の年を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

また、このたび発足から今日までの歴史をまとめられた記念誌が発刊されることは誠に意義深く、当初から住民の生命、財産を守るため、消防組織の拡充、施設の整備や資機材の充足等を図り、日夜消防活動に従事し現在までの礎を築いていただいた先人の消防関係者に敬意と感謝を申し上げます。

近年、気候変動などにより、火災や事故等の災害の様態は複雑多様化し、自然災害については大規模地震や記録的豪雨等激甚化する傾向にあり、住民の消防に対する期待はより大きなものとなってきております。

さらに、このような災害のみならず、突如として全世界を襲った新型コロナウイルス感染症などあらゆる事態の対応と、その備えが強く求められ、消防としての使命はより一層重いものとなっております。

しかしながら、これまでの 50 年にわたる歳月のなかで幾多の災害や困難を乗り越えて培ってきた経験と技術力そして消防職団員の結束力を発揮することにより、必ずや使命を全うできると私は確信しております。

この度 50 周年を迎え、私たち消防団員としましても消防職員との確固たる信頼関係を保ち、さらに連携を強固なものとし、住民の生命、財産を守り、安全、安心の確保に取り組んでまいり所存であります。

結びにあたりまして、先人たちの歩まれた不屈の歴史と伝統、並びに愛郷心を引き継ぎ、石狩北部地区消防事務組合の更なる発展と関係各位の益々のご健勝を心から祈念し、発刊にあたっての言葉とさせていただきます。

組合創設 50 周年を迎えて



当別町長
後藤 正洋

石狩北部地区消防事務組合が創設から 50 周年を迎えられたことに、心からお慶び申し上げますとともに、長年、消防行政の発展のためご尽力賜りました関係諸兄に、深く敬意を表する次第です。

さて、広域消防として昭和 46 年 4 月に発足して以来、急激な経済発展や社会情勢、地球環境の変化により、災害の態様は複雑かつ多様化しており、特に、気候変動等の影響による自然災害が激甚化し、地震や台風、豪雨による風雪水害、土砂災害が全国各地で発生し、甚大な被害をもたらしております。近年では、平成 30 年に北海道胆振東部地震が発生し、道内各地で大きな被害となったことは記憶に新しいところです。

このような中、平成 25 年 10 月に各市町村消防が個別に実施してきた消防指令業務及び災害出動体制を一元化し、広域的な防災体制の充実強化を図ってきたところですが、昨年から続く新型コロナウイルス感染症により救急体制も一変し、一向に終息の兆しが見えない状況が続いており、アフターコロナを見据えたときに、「強靱な街づくり」が必要不可欠であり、更なる消防防災体制の強化と危機管理体制の充実が求められております。

今後は、札幌圏域における通信指令業務の共同運用が予定されており、加えて国でも、AI・IOT といった先進技術の活用やドローンを活用した効果的な情報収集などが示され、デジタル化による消防防災体制の充実強化の構築に向けた施策となっており、当別町が目指す、デジタルによる町民生活を支える社会づくりをともに進めてまいりたいと存じます。

この 50 周年を契機に、住民が安心して安全な生活を送れるよう、広域消防として更なる結束を固め、一層の体制強化と充実に努めていただきますようお願い申し上げます。

結びに、石狩北部地区消防組合消防の皆様をはじめとした消防関係者が築き上げた輝かしい歴史と伝統を継承し、新しい時代に即した消防組織として、益々発展されますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

組合創設 50 周年を迎えて



新篠津村長
石塚 隆

石狩北部地区消防事務組合が創設 50 周年の節目を迎え、後世に記録を残す記念誌が発刊されますことは、誠に意義深く心からお祝いを申し上げます。

また、昭和 46 年の発足以来、広域消防事務組合発展にご尽力いただいた多くの皆様のご苦勞に対し、敬意を表する次第であります。

50 年の歩みの中で、平成 25 年 10 月には、消防指令センターが開設され、指令業務の一元化と、より連携した迅速な初動体制が構築されましたことは、記憶に新しいところでもあります。

近年は、我々の財産や生命を脅かすような過去に例のないレベルでの地震・台風・豪雪等が頻発し、さらに新型コロナウイルス感染症のパンデミックもあり、まさに想定外の大規模災害等が今後いつ起こってもおかしくない時代になっております。

これらの状況を考えますと、今後ますます、災害等に迅速かつ適切に対応していくためにも消防職員はもとより、女性消防団を始めとする消防団活動による予防活動の必要性を改めて認識し、消防防災体制の一層の強化を望むものであります。

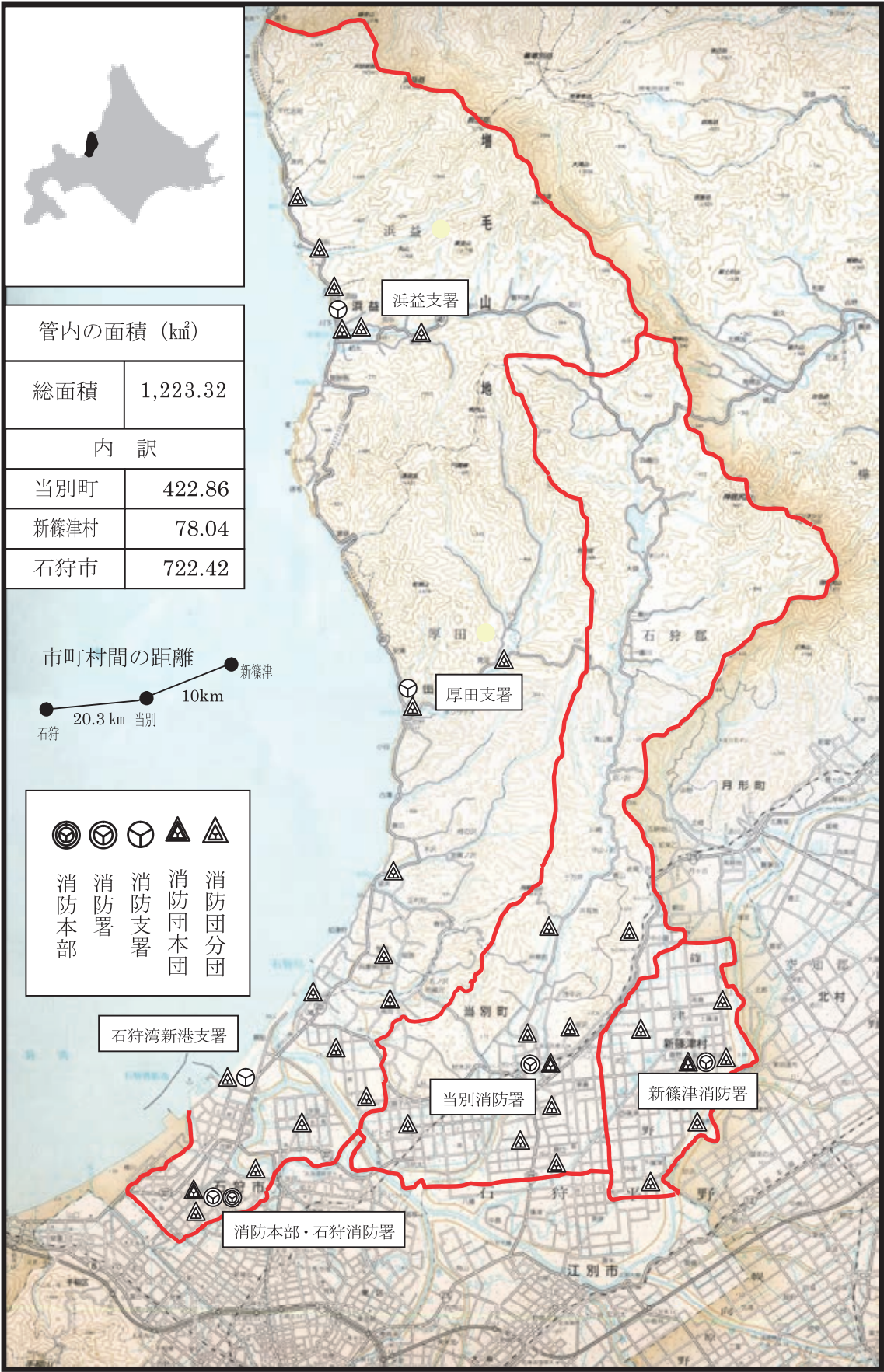
この 50 周年を契機に、今まで培ってこられました連帯感を強固なものとして、地域に密着した消防防災活動にご精進いただき、組合の限りない発展と、安全で住みよいまちづくりに進展されますことをご祈念申し上げます。

結びに、多年にわたり組合を支えてこられました歴代の消防団員・職員・関係各位のご労苦に対し感謝の念をささげ、お祝いのことばといたします。

第1章 組織概要



石狩北部地区消防事務組合 管内図



消防の組織・機構（本部、署）

1. 組合関係市町村及び位置

本組合は、石狩振興局管内の北部に在る、当別町、新篠津村、石狩市の1市1町1村を以て構成し、南は札幌市、小樽市及び江別市に接し、西は石狩湾に面し、北は留萌振興局管内増毛町に、東は空知総合振興局管内新十津川町、月形町、浦臼町及び岩見沢市にそれぞれ接している。

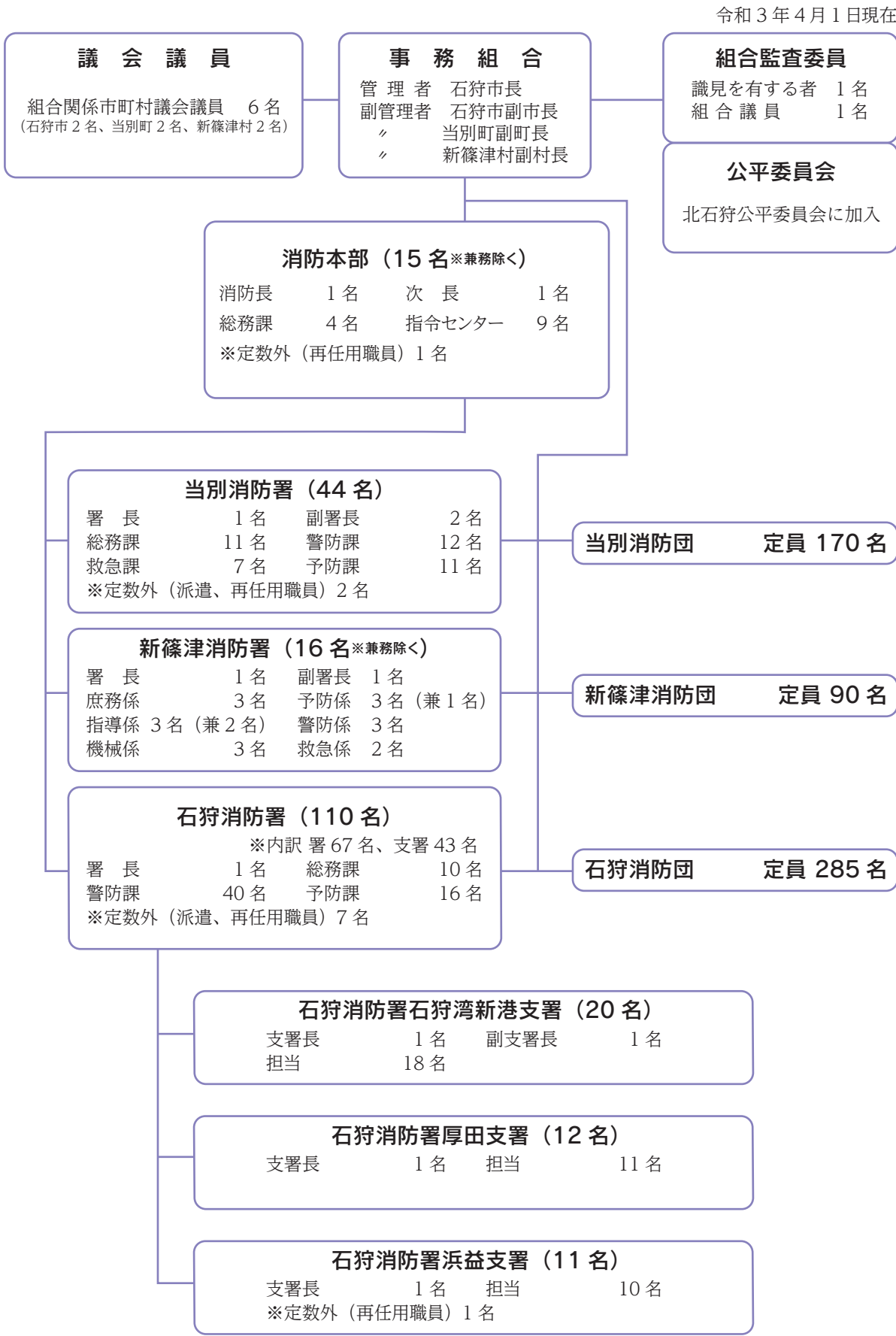
2. 面積

当別町	422.86km ²
新篠津村	78.04km ²
石狩市	722.42km ²
合計	1,223.32km ²

3. 人口・世帯数

		令和3年4月1日現在			
市町村別		当別町	新篠津村	石狩市	計
区分	人口				
	男	7,558	1,418	28,194	37,170
	女	7,940	1,526	30,024	39,490
	計	15,498	2,944	58,218	76,660
世帯		7,648	1,374	28,244	37,266

4. 機構



5. 役職者名簿

管理者・副管理者 令和3年4月1日現在

職名	氏名	就任年月日	備考
管理者	加藤 龍 幸	令和元年 6月27日	石 狩 市 長
副 管 理 者	鎌 田 英 暢	令和元年10月12日	石 狩 市 副 市 長
副 管 理 者	増 輪 肇	平成26年 4月 1日	当 別 町 副 町 長
副 管 理 者	古 谷 直 樹	平成29年 8月 1日	新篠津村副村長

議 会 議 員 令和3年4月1日現在

職名	氏名	就任年月日	備考
議 長	蜂 谷 三 雄	令和元年 6月 7日	石 狩 市 議 会 議 員
副 議 長	岡 野 喜代治	令和元年 6月 7日	当 別 町 議 会 議 員
議 員	高 橋 孝 志	平成27年 6月 8日	新篠津村議会議員
議 員	大 塚 裕 樹	平成29年 6月 8日	新篠津村議会議員
議 員	西 村 良 伸	令和元年 6月 7日	当 別 町 議 会 議 員
議 員	高 田 静 夫	令和元年 6月 7日	石 狩 市 議 会 議 員

監 査 委 員 令和3年4月1日現在

職名	氏名	就任年月日	備考
識見を有する者	白 井 應 隆	令和元年 6月 7日	当 別 町
議 会 選 出	高 橋 孝 志	令和元年 6月 7日	新篠津村議会議員

消防長・署長 令和3年4月1日現在

職名	氏名	就任年月日	備考
消 防 長	新 岡 研一郎	令和 2年 4日 1日	
次 長	高 井 篤	令和 2年 4日 1日	
当 別 消 防 署 長	佐々木 伸 幸	平成31年 4月 1日	
新篠津消防署長	横 山 裕 二	平成29年 4月 1日	
石 狩 消 防 署 長	高 橋 一 洋	令和 2年 4日 1日	

消防団長・副団長 令和3年4月1日現在

職名	氏名	就任年月日	備考
当別消防団 団 長	木屋路 喜代史	平成31年 4月 1日	
〃 副団長	見 上 孝太郎	平成31年 4月 1日	
〃 〃	岩 崎 義 彦	令和元年 5月 1日	
新篠津消防団 団 長	山 本 慎 一	平成31年 4月 1日	
〃 副団長	黒 壁 忠 雄	平成28年 1月 1日	
〃 〃	佐 藤 政 之	平成31年 4月 1日	
石狩消防団 団 長	日下部 勝 義	平成28年 4月 1日	
〃 副団長	相 田 芳 男	平成31年 4月 1日	
〃 〃	八木沼 正 見	平成30年 4月 1日	
〃 〃	木 村 武 彦	平成27年 6月 1日	
〃 〃	鳥 潟 洋 子	平成31年 4月 1日	

6. 歴代管理者・議会議長・消防長

歴代管理者令和3年4月1日現在

歴代	氏名	就任年月日	備考
初代	近藤辰雄	昭和45年10月1日	当別町長組合設立
2・3・4代	上口正一	昭和46年5月8日	当別町長
5・6・7代	配野定平	昭和56年8月7日	〃
8・9代	伊達寿之	平成5年8月2日	〃
10・11代	泉亭俊彦	平成13年8月2日	〃
12・13・14代	田岡克介	平成18年4月1日	石狩市長
15代現職	加藤龍幸	令和元年6月27日	〃

歴代議会議長令和3年4月1日現在

歴代	氏名	就任年月日	備考
初代	山田政太郎	昭和45年10月28日	当別町議会議員
2代	川村弘司	昭和46年6月5日	〃
3代	後藤正義	昭和50年5月16日	〃
4・5・6代	川村弘司	昭和54年5月17日	〃
7代	金山保	平成3年5月18日	〃
8代	青山義虎	平成7年5月4日	〃
9代	竹田和雄	平成10年7月2日	〃
10代	千葉莊康	平成11年5月21日	〃
11代	島田裕司	平成15年6月9日	〃
12代	長原徳治	平成19年6月12日	石狩市議会議員
13代	千葉正威	平成21年6月11日	〃
14代	長原徳治	平成23年6月14日	〃
15代	米林渙昭	平成25年6月10日	〃
16代	日下部勝義	平成27年6月8日	〃
17代	青山祐幸	平成29年6月8日	〃
18代現職	蜂谷三雄	令和元年6月7日	〃

歴代消防長令和3年4月1日現在

歴代	氏名	就任年月日	備考
初代	竹原庄一	昭和45年10月1日	組合設立
2代	配野博	昭和45年12月28日	
3代	安栄昭治	昭和57年11月9日	
4代	山崎勲	平成3年4月1日	
5代	熊谷時男	平成6年1月15日	
6代	配野行雄	平成13年10月1日	
7代	上田誠二	平成15年4月1日	
8代	川端章義	平成18年4月1日	
9代	二社谷康治	平成19年10月1日	
10代	清野和彦	平成22年4月1日	
11代	内藤廣之	平成27年4月1日	
12代	市園博行	平成30年4月1日	
13代現職	新岡研一郎	令和2年4月1日	

7. 職員の配置状況（本部、署、階級別）

令和3年4月1日現在

階級別 所属別	計	消 防 吏 員							消防職員	定数外職員		
		消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士		派遣	再任用	休職
消 防 本 部	15	1	1	2	7	3			1		1	
当 別 消 防 署	44		1	11	14	8	1	8	1	1	1	
新 篠 津 消 防 署	16			2	5	3	3	3				
石 狩 消 防 署	110		1	16	30	29	20	14		3	4	
合 計	185	1	3	31	56	43	24	25	2	4	6	

8. 消防団員実員数及び配置表

消防団員実員数

令和3年4月1日現在

階 級 区 分	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
当 別 消 防 団	146	1	2	10	2	11	23	97
新 篠 津 消 防 団	75	1	2	6	6	7	15	38
石 狩 消 防 団	251	1	4	21	19	29	62	115
合 計	472	3	8	37	27	47	100	250

消防団員配置表

令和3年4月1日現在

階 級 区 分		所在地	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
当別消防団	消 防 団 本 団	錦 町	13	1	2	1		1	2	6
	第 1 分 団	錦 町	20			1	1	2	4	12
	第 2 分 団	太 美 町	25			1	1	1	3	19
	第 3 分 団	東 裏	12			1		1	2	8
	第 4 分 団	金 沢	9			1		1	2	5
	第 5 分 団	中小屋	13			1		1	2	9
	第 6 分 団	弁 華 別	17			1		1	2	13
	第 7 分 団	六 軒 町	13			1		1	2	9
	第 8 分 団	対 雁	12			1		1	2	8
	第 9 分 団	蕨 岱	12			1		1	2	8
	計		146	1	2	10	2	11	23	97
新篠津消防団	消 防 団 本 団	中 央	9	1	2	1	1	1	2	1
	中 央 分 団	中 央	17			1	1	2	5	8
	第 1 分 団	第 1	10			1	1	1	2	5
	第 3 分 団	第 3	15			1	1	1	2	10
	第 4 分 団	第 4	12			1	1	1	2	7
	第 5 分 団	第 5	12			1	1	1	2	7
	計		75	1	2	6	6	7	15	38

令和3年4月1日現在

階 級 区 分			所在地	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
石狩消防団	消 防 団 本 団		花 川 北	8	1	4	3				
	第 1 分 団	第 1 部	志 美	27			1	1	1	3	4
		第 2 部	八 幡					1	1	4	11
	第 3 分 団		花 川 北	19			1	1	2	5	10
	第 4 分 団		生 振	14			1	1	2	4	6
	第 5 分 団		花 川 南	25			1	1	2	4	17
	第 6 分 団		高 岡	13			1	1	2	3	6
	第 7 分 団		美 登 位	5			1	1	1	1	1
	第 8 分 団		北 生 振	14			1	1	2	2	8
	厚 田 分 団		厚 田	11			1	1	2	4	3
	望 来 分 団		望 来	18			1	1	2	6	8
	聚 富 分 団		聚 富	15			1	1	2	4	7
	発 足 分 団		発 足	10			1	1	2	3	3
	浜 益 分 団		浜 益	9			1	1	1	2	4
	群 別 分 団		群 別	10			1	1	1	2	5
	幌 分 団		幌	8			1	1	1	3	2
	川 下 分 団		川 下	12			1	1	1	3	6
	柏 木 分 団			13			1	1	1	2	8
	実 田 分 団		実 田	9			1	1	1	3	3
	ハ マ ナ ス 分 団		花 川 北	11			1	1	2	4	3
計			251	1	4	21	19	29	62	115	

第2章
沿革



石狩北部地区消防事務組合 50 年のあゆみ

社会経済の急速な進展に伴い、消防の体制も時代に即応した近代的合理化はもとより有機的な相互
応援体制として、広域化、常備化を図るため、石狩北部地区町村を以て、消防一部事務組合の設置を
推進しました。



昭和 46 年 新篠津消防庁舎



昭和 46 年 当別消防庁舎

- 昭和 46 年

4 月

消防組織発足（当別町、新篠津村、厚田村、浜益村の 1 町 3 村）消防本部、署、
所設置、消防長に配野博氏就任

1 本部、1 署、3 出張所、消防吏員 35 名、事務職員 2 名 計 37 名、4 消防団、
団員 580 名
- 5 月

広報「消防組合」第 1 号発刊
管理者に当別町長上口正一氏互選
- 6 月

消防本部及び消防署を置かなければならない市町村として当別町、新篠津村、厚
田村、浜益村が指定（自治省告示第 110 号）

救急業務を行わなければならぬ市町村として当別町、新篠津村、厚田村、浜益
村が指定（自治省告示第 111 号）

議会議長に当別町議会議員川村弘司氏選任
- 8 月

厚田消防団厚田分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 12 月

当別消防署に日本赤十字社北海道支部より救急自動車配置

当別消防団第 3 分団に小型動力ポンプ付積載車配置

厚田消防団発足分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 昭和 47 年

4 月

当別消防団第 4 分団に小型動力ポンプ付積載車配置

石総務第 62 号指令により石狩町の加入に伴う組合規約変更許可

石狩町の組合加入により、1 本部、1 署、4 出張所、消防吏員 59 名、事務職員
3 名 計 62 名、5 消防団、消防団員 770 名

消防本部及び消防署を置かなければならない市町村として石狩町が指定
（自治省告示第 106 号）
- 5 月

当別消防署に指令車配置
- 6 月

浜益出張所救急業務開始
- 7 月

厚田出張所救急業務開始

新篠津村にて北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会開催
- 9 月

新篠津出張所救急業務開始

消防団員定数 785 名
- 10 月

石狩出張所に水槽付消防ポンプ自動車配置

石狩消防団第 2 分団 2 部に小型動力ポンプ付積載車配置

新篠津消防団第 5 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 11 月

石狩出張所に救急自動車配置

石狩出張所救急業務開始
- 12 月

浜益消防団幌分団に小型ポンプ付積載車配置
- 昭和 48 年

4 月

消防団員定数 768 名

石狩出張所に広報車配置
- 6 月

救急業務を行わなければならぬ市町村として石狩町が指定
（自治省告示第 119 号）



昭和 47 年 石狩消防庁舎



昭和 36 年 水害（新篠津村）



昭和48年	8月	当別消防署に原付自動車（連絡車）配置
	11月	元当別消防団長末田秀雄氏、勲六等瑞宝章受章 浜益消防団群別分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	12月	新篠津出張所に日本赤十字社北海道支部新篠津分区より救急自動車配置
昭和49年	3月	当別消防団第1分団第3部に小型動力ポンプ付積載車配置
	4月	石狩出張所を石狩消防署に昇格 消防吏員71名、事務職員4名 計75名
	5月	厚田出張所へ株式会社パシフィック・エンタープライズよりニッサン FHN60 中型消防ポンプ自動車寄贈
	6月	新篠津出張所、新篠津消防団本団詰所新築
	7月	北海道消防操法訓練大会ポンプ自動車操法の部に新篠津消防団中央分団が出席し 北海道知事より竿頭授受賞
	8月	浜益消防団川下分団に小型動力ポンプ付積載車配置
昭和50年	9月	厚田出張所に日本赤十字社北海道支部厚田分区より救急自動車配置 新篠津消防団第1分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	5月	管理者に当別町長上口正一氏再選 議会議長に当別町議会議長後藤正義氏、議会副議長に浜益村議会議員木村武一氏、 収入役に当別町収入役吉原貞義氏選任
	8月	副管理者に当別町助役配野定平氏選任 当別消防署へ北海道共済農業協同組合連合会より救急自動車寄贈 新篠津消防団第4分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	10月	浜益出張所に日本赤十字社北海道支部浜益分区より救急自動車配置
昭和51年	2月	当別消防団第2分団に消防ポンプ自動車配置 新篠津消防団台風による水防活動の功績により建設大臣表彰受賞
	8月	収入役に当別町収入役竹原庄一氏選任
	9月	石狩消防署に指令車配置
昭和52年	2月	監査委員（識見を有する者）に田村正治氏選任
	4月	消防吏員88名、事務職員4名 計92名、消防団員定数753名
	6月	新篠津出張所に連絡車配置
	7月	浜益村にて北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会開催
	9月	当別町にて組合消防連合訓練大会開催 石狩消防署花川南出張所設置
	11月	元石狩消防団副団長後藤光雄氏、勲六等瑞宝章受章 石狩消防署花川南出張所に水槽付消防ポンプ自動車配置
	12月	当別消防署に小型動力ポンプ付水槽車配置 浜益出張所へ社団法人日本損害保険協会より救急自動車寄贈 石狩消防署に救急自動車配置



昭和47年 札幌地方支部大会行進 新篠津消防団（新篠津）



昭和48年 北海道消防操法訓練大会出場壮行会（当別）



昭和50年代 模擬火災訓練（当別）



水槽付消防ポンプ自動車（当別）

日機ロケット3型 昭和39年から平成2年まで



昭和49年 消防団訓練大会（厚田）



昭和50年代 模擬火災訓練（当別）



昭和49年 北海道消防操法大会出場 新篠津消防団

昭和 53 年	2 月	消防本部に連絡車配置
	3 月	自治体消防 30 周年記念式典参加（東京）
	4 月	消防吏員 99 名、事務職員 4 名 計 103 名 石狩北部地区危険物安全協会設立（当別、新篠津、石狩、厚田、浜益の 5 支部） 元石狩消防団長中田秀雄氏、勲五等瑞宝章受章
	5 月	当別消防団第 1 分団第 5 部に積載車配置
	7 月	厚田出張所に広報連絡車配置
昭和 54 年	8 月	石狩消防署に広報車配置
	11 月	石狩消防署花川南出張所に消防ポンプ自動車配置
	12 月	石狩消防署にはしご付消防自動車（30m 級）配置
	1 月	石狩消防署に小型動力ポンプ付水槽車配置
	4 月	消防吏員 105 名、事務職員 4 名 計 109 名 石狩消防署移転 石狩消防署花川南出張所を廃止し、北出張所を設置
	5 月	管理者に当別町長上口正一氏再選、議会議長に当別町議会議員川村弘司氏選任
	6 月	元当別消防署次長大澤吉實氏、勲六等瑞宝章受章
	9 月	浜益消防団実田分団に小型動力ポンプ付積載車配置
昭和 55 年	11 月	石狩消防署に消防ポンプ自動車配置
	12 月	当別消防団第 1 分団第 4 部に消防ポンプ自動車配置 新篠津出張所に小型動力ポンプ付水槽車配置 厚田出張所に水槽付消防ポンプ自動車配置
	3 月	消防本部に予防広報車配置 石狩消防署に広報連絡車兼作業車配置
	4 月	消防吏員 105 名、事務職員 5 名 計 110 名 組合初の少年消防クラブ、当別町北栄町少年消防クラブ誕生（クラブ員 23 名）
	5 月	組合初の婦人防火クラブ、浜益村濃屋地区婦人防火クラブ誕生（クラブ員 20 名）
	7 月	収入役に当別町収入役松野栄治氏選任
	9 月	消防団員定数 738 名 石狩消防署に広報車兼救急自動車配置 厚田消防団望来分団に小型動力ポンプ付積載車配置 厚田消防団発足分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	10 月	厚田村（滝の沢トンネル）にてトンネル火災訓練を開催、当組合より消防本部、厚田出張所、厚田消防団、浜益出張所、浜益消防団、当別消防署、石狩消防署が参加



新篠津消防庁舎



昭和 54 年 模擬火災訓練（石狩）



昭和 55 年 火災予防用行燈



昭和 54 年 水槽車（新篠津）



石狩消防庁舎 昭和 54 年 3 月 31 日完成

- 昭和 55 年 11 月 元浜益消防団副団長菊地徳光氏、勲六等瑞宝章受章
12 月 浜益出張所に水槽付消防ポンプ自動車配置
- 昭和 56 年 1 月 新篠津出張所へ社団法人日本自動車工業会より救急自動車寄贈
2 月 議会副議長に石狩町議会議員萩原茂樹氏選任
3 月 浜益出張所に広報連絡車配置
4 月 元浜益消防団分団長舟橋幹氏、勲七等青色桐葉章受章
5 月 石狩町初の少年消防クラブ、石狩町樽川少年消防クラブ誕生（クラブ員 20 名）
7 月 当別町にて北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会開催
8 月 管理者に当別町長配野定平氏互選、副管理者に当別町助役近藤善留氏選任
新篠津消防団第 3 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
9 月 石狩北部地区消防事務組合創設 10 周年記念式典開催（当別町農村環境改善センター）
当別消防署へ日本損害保険協会より消防ポンプ自動車（火災保険号）寄贈
新篠津村初の婦人防火クラブ、新篠津婦人防火クラブ誕生（クラブ員 81 名）
11 月 当別町初の婦人防火クラブ、当別町美登江婦人防火クラブ誕生（クラブ員 38 名）
石狩北部地区幼年・少年・婦人防火委員会発足
当別消防団第 3 分団へ日本消防協会より小型動力ポンプ付積載車寄贈
新篠津消防団集中豪雨による水防活動の功績により建設大臣表彰受賞
- 昭和 57 年 2 月 厚田村初の少年消防クラブ、厚田村別狩少年消防クラブ誕生（クラブ員 31 名）
当別町末広町婦人防火クラブ発足（クラブ員 26 名）
3 月 当別町万代町少年消防クラブ発足（クラブ員 19 名）
当別町西町少年消防クラブ発足（クラブ員 40 名）
当別町中小屋婦人防火クラブ発足（クラブ員 75 名）
当別町当別太婦人防火クラブ発足（クラブ員 37 名）
当別消防団第 1 分団第 3 部に小型動力ポンプ付積載車配置
4 月 元石狩消防団第 2 分団長若林久男氏、勲七等青色桐葉章受章
元浜益消防団部長長谷川徳太郎氏、勲七等青色桐葉章受章
石狩消防署に日本赤十字社北海道支部石狩町分区より救急自動車配置
5 月 組合初の幼年消防クラブ、当別町西保育所幼年消防クラブ誕生（クラブ員 95 名）
9 月 浜益消防団柏木分団に小型動力ポンプ付積載車配置
11 月 消防長配野博氏退職、消防長に安栄昭治氏就任
元浜益消防団分団長湯浅健一氏、勲七等青色桐葉章受章
- 昭和 58 年 3 月 当別消防署へ日本損害保険協会より救急自動車寄贈
厚田出張所に広報連絡車配置
4 月 元厚田消防団副団長多田栄作氏、勲七等青色桐葉章受章



昭和 55 年 組合合同訓練（滝ノ沢トンネル）



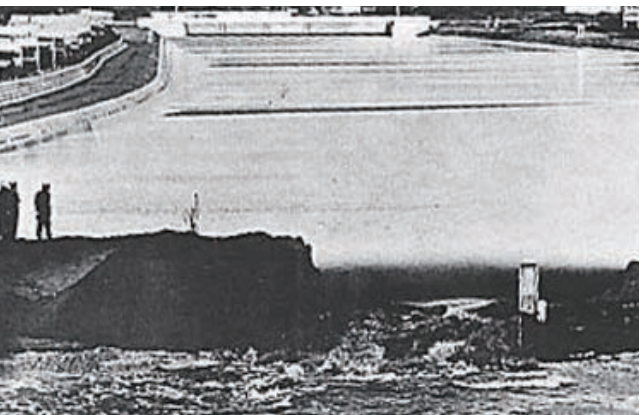
昭和 55 年 送毛峠林野火災（浜益）



昭和 56 年 第 2 回消防まつり（石狩）



昭和 56 年 8 月 戦後最大の集中豪雨 新篠津村・当別町・石狩町



茨戸川の洪水を直接日本海に流す石狩放水路
「一般財団法人 石狩川振興財団 HP より」



水浸しの石狩町親船
「一般財団法人 石狩川振興財団 HP より」

- 昭和 58 年

5 月

議会議長に当別町議会議員川村弘司氏再選、議会副議長に浜益村議会議員武安喜一郎氏選任
- 7 月

石狩町初の幼年消防クラブ、石狩町さくら幼年消防クラブ誕生（クラブ員 120 名）
- 8 月

新篠津消防団第 5 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 10 月

消防吏員 106 名、事務職員 5 名 計 111 名
- 11 月

浜益出張所に救急自動車配置
- 昭和 59 年

1 月

元浜益消防団長小畠孝一氏、従六位勲五等瑞宝章受章
- 3 月

消防本部に予防広報車配置
- 4 月

浜益村川下婦人防火クラブ発足（クラブ員 24 名）
- 6 月

収入役に当別町収入役松野栄治氏再選
当別消防署に指令車配置
- 7 月

北海道消防操法訓練大会小型ポンプ操法の部に新篠津消防団中央分団が出場し準優勝
- 9 月

当別消防団第 6 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
石狩消防署に資材運搬車配置
当別消防団第 3 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 11 月

元新篠津消防団副団長美濃宗吾氏、勲六等単光旭日章受章
石狩消防署へ日本防火協会より防火広報車寄贈
- 12 月

石狩町初の婦人防火クラブ、石狩町東婦人防火クラブ誕生（クラブ員 52 名）
- 昭和 60 年

2 月

議会副議長に厚田村議会議員河合雅雄氏選任
石狩町北陽幼年消防クラブ発足（クラブ員 170 名）
- 3 月

当別町立東保育所幼年消防クラブ発足（クラブ員 60 名）
- 4 月

消防吏員 106 名、事務職員 5 名 計 111 名
元石狩消防団副分団長田岡定男氏、勲六等単光旭日章受章
元浜益消防団長二本柳正男氏、勲六等単光旭日章受章
- 5 月

当別消防署、石狩消防署に救助隊設置
- 6 月

札幌市にて石狩川水防公開演習が開催、当組合より当別消防団、石狩消防団が参加
- 7 月

石狩消防署に救助用ボート配置
厚田村にて北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会開催
- 8 月

管理者に当別町長配野定平氏再選
新篠津消防創設 70 周年記念式典開催（新篠津村自治センター）
- 9 月

副管理者に当別町助役長谷川政吉氏選任
- 10 月

当別消防団第 1 分団第 5 部に小型動力ポンプ付積載車配置



昭和 59 年 北海道消防操法訓練大会
新篠津中央分団準優勝



昭和 57 年 8 月 22 日 石狩消防訓練大会



昭和 57 年 東日本学園大学 模擬火災訓練（当別）



昭和 58 年 当別消防観閲式



石狩消防署 模擬火災訓練

昭和 60 年	12 月	石狩町北生振婦人防火クラブ発足（クラブ員 52 名）
昭和 61 年	8 月	新篠津村にて北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会開催
	9 月	高圧ガス輸送保安確保共同防火訓練（石狩新港地区）に当組合参加 厚田消防団厚田分団に小型動力ポンプ付積載車配置 北海道消防操法訓練大会小型ポンプの部に厚田消防団選抜団員が出場し準優勝
	10 月	石狩消防署に小型動力ポンプ付水槽車配置
	11 月	消防吏員 108 名、事務職員 5 名 計 113 名
	12 月	当別消防署に屈折はしご付消防ポンプ自動車配置 石狩町北陽婦人防火クラブ発足（クラブ員 192 名）
昭和 62 年	5 月	議会議長に当別町議会議員川村弘司氏、議会副議長に厚田村議会議員河合雅雄氏再選
	10 月	石狩消防署北出張所に指令車配置 浜益消防団浜益分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	11 月	消防本部に連絡車配置
昭和 63 年	1 月	石狩消防署にボートトレーラー配置
	3 月	自治体消防 40 周年記念式典参加（東京）
	4 月	消防吏員 111 名、事務職員 5 名 計 116 名
	6 月	石狩消防署に指令車配置
	7 月	石狩消防署に日本赤十字社北海道支部石狩町分区より救急自動車配置 収入役に当別町収入役伊達寿之氏選任
	8 月	当別消防団第 4 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	11 月	石狩消防署北出張所に水槽付消防ポンプ自動車配置
	12 月	浜益村初の浜益村川下保育所、群別保育所幼年消防クラブ誕生（クラブ員 29 名・22 名）
平成 元 年	1 月	新篠津消防団中央分団に水槽付消防ポンプ自動車配置 厚田出張所へ財団法人日本損害保険協会より救急自動車寄贈
	2 月	監査委員（識見を有する者）に片岡弘二氏選任
	3 月	浜益消防団幌分団に小型動力ポンプ付積載車配置 浜益出張所に広報連絡車配置
	4 月	消防吏員 112 名、事務職員 5 名 計 117 名
	5 月	新篠津出張所に連絡車配置
	6 月	新篠津村にて石狩川水防公開演習が開催、当組合より新篠津消防団が参加
	7 月	厚田消防団厚田分団移転
	8 月	管理者に当別町長配野定平氏再選
	9 月	副管理者に当別町助役長谷川政吉氏再任



昭和 61 年 消防車と遊ぼう会（当別）



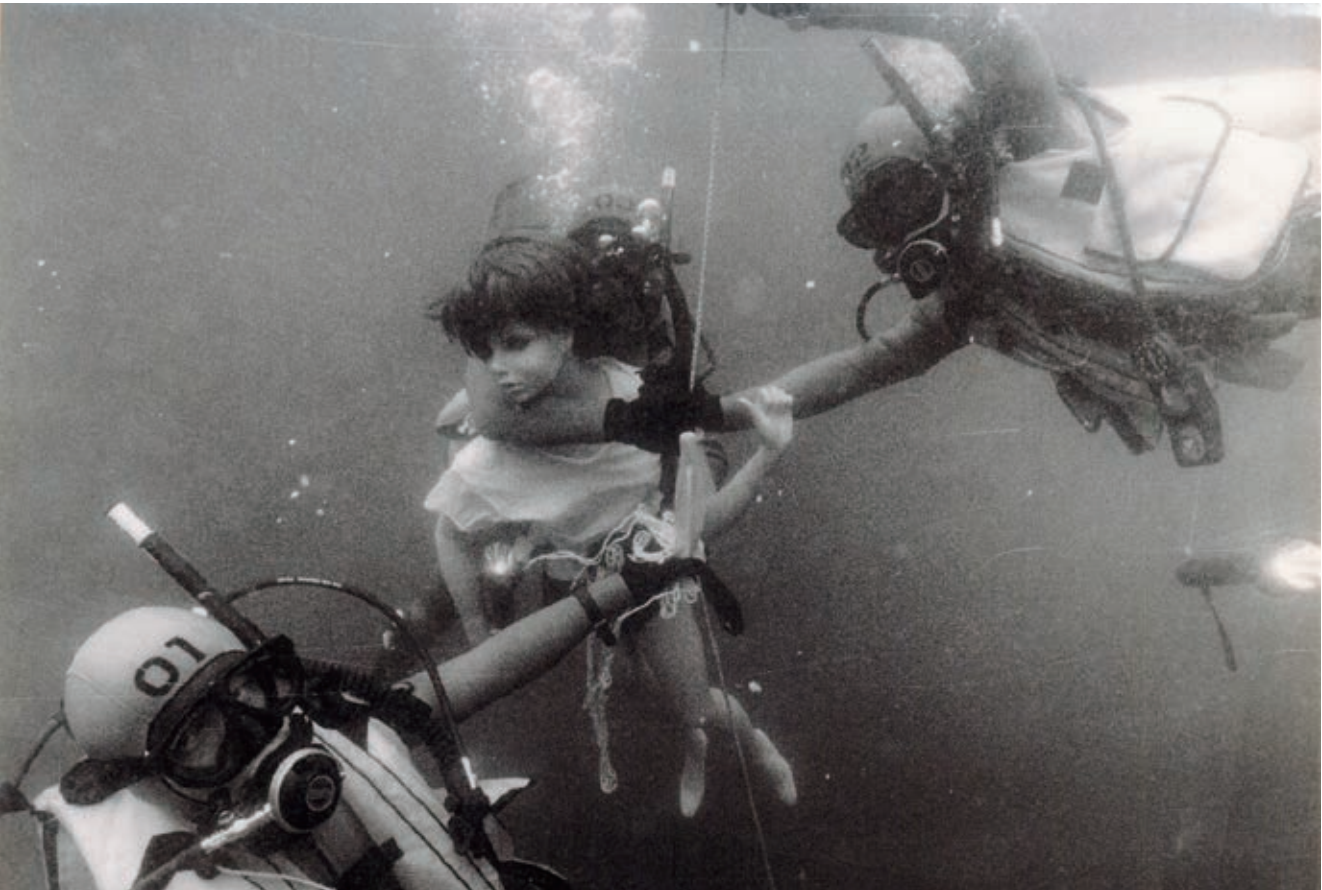
昭和 61 年 極寒の潜水訓練（石狩）



昭和 63 年 石狩消防訓練大会



昭和 63 年 新篠津消防訓練大会



平成元年	10月	当別消防団第1分団第2部に小型動力ポンプ付積載車配置 浜益消防団群別分団に小型動力ポンプ付積載車配置
平成2年	3月	新篠津消防団第1分団に小型動力ポンプ付積載車配置 浜益出張所に救急自動車配置
	4月	消防吏員115名、事務職員5名 計120名
	6月	石狩消防署へ株式会社札幌ゴルフ場より救急自動車寄贈
	9月	浜益消防団川下分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	11月	当別消防団第2分団に小型動力ポンプ付積載車配置 当別消防団第5分団に小型動力ポンプ付積載車配置 当別消防署に化学消防ポンプ自動車配置
	12月	新篠津消防団第3分団詰所移転 厚田支署移転
平成3年	2月	北海道広域消防相互応援協定調印
	3月	消防長安栄昭治氏当別町へ異動
	4月	消防吏員117名、事務職員5名 計122名 消防長に山崎勲氏就任 当別消防署新篠津出張所、同厚田出張所、同浜益出張所を支署に改称 元厚田消防団分団長竹田良爾氏、勲六等瑞宝章受章
	5月	議会議長に当別町議会議員金山保氏選任、議会副議長に厚田村議会議員河合雅雄氏再任、議会選出の監査委員に浜益村議会議員滝本一次氏選任
	7月	石狩北部地区消防事務組合創設20周年記念消防総合訓練大会開催（当別町当別小学校）
	10月	副管理者に当別町助役伊達寿之氏選任
	11月	石狩消防署に水槽付消防ポンプ自動車配置 石狩北部地区消防事務組合創設20周年記念式典開催（当別町総合体育館） 厚田支署に小型動力ポンプ付水槽車配置 当別消防署へ北海道農業共済組合連合会より救急自動車寄贈
平成4年	4月	消防吏員122名、事務職員5名 計127名
	7月	収入役に当別町収入役山本達雄氏選任 浜益村にて北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会開催
	8月	高速自動車道消防総合訓練に当別消防署、石狩消防署が参加 浜益支署に資機材運搬車配置
	10月	当別消防団第1分団第1部に水槽付消防ポンプ自動車配置
	11月	厚田村初の幼年消防クラブ、厚田村厚田保育所幼年消防クラブ誕生（クラブ員46名）
平成5年	2月	監査委員（識見を有する者）に片岡弘二氏、議会選出の監査委員に浜益村議会議員滝本一次氏再任
	4月	消防吏員127名、事務職員5名 計132名 元厚田消防団分団長竹田盛爾氏、勲五等双光旭日章受章 元浜益消防団副分団長荘司武氏、勲六等瑞宝章受章



昭和63年 署内見学（石狩）



平成元年 水防公開演習（新篠津消防団）



石狩川水難事故



平成2年 火災予防ゲートボール大会（当別）



平成3年2月 石狩河口橋交通事故



北海道石狩南高等学校消火訓練

- 平成 5 年 8 月 管理者に当別町長伊達寿之氏互選
副管理者に当別町助役飯田敬氏選任
新篠津消防団第 4 分団へ日本消防協会より小型動力ポンプ付積載車寄贈
浜益支署に資機材運搬車配置
- 9 月 新篠津村初の幼年消防クラブ、新篠津村すくすく保育所幼年消防クラブ誕生（ク
ラブ員 57 名）
浜益消防団濃屋分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 10 月 石狩消防署へ社団法人日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車寄贈
新篠津支署に消防ポンプ自動車配置
厚田村望来、聚富保育所幼年消防クラブ発足（クラブ員 60 名）
- 11 月 自治体消防 45 周年記念大会参加（東京）
- 平成 6 年 1 月 消防長山崎勲氏当別町へ異動、消防長に熊谷時男氏就任
2 月 収入役に当別町収入役山崎勲氏選任
3 月 石狩消防署に救助工作車配置
4 月 消防吏員 132 名、事務職員 5 名 計 137 名
厚田村初の婦人防火クラブ、厚田村虹が原婦人防火クラブ誕生（クラブ員 35 名）
5 月 元当別消防署消防司令佐々木祥臣氏、勲六等単光旭日章受章
6 月 石狩町にて石狩川水防公開演習を開催、当組合より消防本部、当別消防署、新篠
津支署、石狩消防署、当別消防団、新篠津消防団、石狩消防団が参加
7 月 石狩消防署の消防ポンプ自動車及び水槽付消防ポンプ自動車を石狩消防団第 3 分
団及び第 5 分団に配置
当別消防署に救助用ボート配置
石狩町にて北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会開催
8 月 石狩町にて北海道防災総合訓練を開催、当組合より消防本部、各署、支署、消防
団が参加
9 月 浜益消防団毘砂別分団に小型動力ポンプ付積載車配置
11 月 収入役に当別町収入役小林登氏選任
元浜益消防団副団長田中初雄氏、勲六等単光旭日章受章
- 平成 7 年 4 月 消防吏員 141 名、事務職員 6 名 計 147 名
5 月 議会議長に当別町議会議員青山義虎氏、議会副議長に石狩市議会議員長原徳治氏選任
6 月 石狩消防署に救助用ボート配置
7 月 当別消防署に指令車配置
新篠津村にて北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会開催
8 月 海老消防庁審議官来庁（消防本部、当別消防署、石狩消防署視察）
9 月 石狩消防署に日本赤十字社北海道支部石狩町分区より救急自動車配置
11 月 厚田消防公設 100 周年記念式開催（厚田村総合センター）
- 平成 8 年 2 月 当別消防署に小型動力ポンプ付積載車配置
3 月 石狩消防署に化学消防ポンプ自動車配置
石狩消防団第 4 分団に小型動力ポンプ付積載車配置



平成 5 年 9 月 合同潜水訓練（鶴川消防来署）



組合創設 20 周年記念事業



平成 6 年 石狩川水防公開演習（石狩）



平成 7 年 札幌市消防局と水難合同訓練



平成 5 年 全道消防救助技術訓練指導会

平成 8 年	3 月	当別消防署に救助工作車配置
	4 月	消防吏員 150 名、事務職員 5 名 計 155 名
	5 月	元石狩消防団副団長工藤敏夫氏、勲六等単光旭日章受章
	7 月	北海道消防防災ヘリコプター応援協定に締結
	9 月	厚田支署へ北海道共済農業協同組合連合会より救急自動車寄贈
平成 9 年	2 月	監査委員（識見を有する者）に片岡弘二氏再任、議会選出監査委員に厚田村議会議員成田一夫氏選任
	3 月	石狩消防団第 6 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	4 月	消防吏員 155 名、事務職員 5 名 計 160 名
	7 月	札幌市にて緊急消防援助隊（北海道・東北ブロック）合同訓練参加 北海道消防操法訓練大会小型ポンプ操法の部に新篠津消防団中央分団が出場し、優良賞受賞 管理者に当別町長伊達寿之氏再選
	8 月	副管理者に当別町助役飯田敬氏再任
	9 月	当別消防署へ北海道共済農業協同組合連合会より救急自動車寄贈
	11 月	元石狩消防団長神田廣次氏、勲五等双光旭日章受章
	12 月	石狩消防署に高規格救急自動車配置 当別消防団第 6 分団詰所新築
平成 10 年	2 月	収入役に当別町収入役高橋嘉郎氏選任
	3 月	石狩消防団第 7 分団に小型動力ポンプ付積載車配置 新篠津消防団第 4 分団詰所移転 自治体消防 50 周年記念大会参加（東京）
	4 月	消防吏員 162 名、事務職員 5 名 計 167 名 元当別消防団長瀬能幸吉氏、勲五等瑞宝章受章
	6 月	石狩消防創設 120 周年記念式開催（花川北コミュニティセンター）
	7 月	議会議長に当別町議会議員竹田和雄氏選任
	9 月	石狩北部地区消防事務組合消防本部、当別消防署、当別消防団本団、第 1 分団詰所新築
	10 月	新篠津消防団第 3 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	11 月	元当別消防団分団長山上數吉氏、勲六等瑞宝章受章 厚田村厚田婦人防火クラブ発足（クラブ員 15 名）
	12 月	新篠津支署に小型動力ポンプ付水槽車配置
	12 月	厚田支署に水槽付消防ポンプ自動車配置
平成 11 年	3 月	石狩消防団第 8 分団に防災車両配置 当別消防団第 2 分団に水槽付消防ポンプ自動車配置 石狩消防署にはしご自動車配置
	4 月	消防吏員 168 名、事務職員 5 名 計 173 名 規約改正に伴い、副管理者 2 人制となり、副管理者に石狩市助役田岡克介氏選任 組織改革に伴い、副消防長 2 人制施行



平成 7 年 札幌地方支部消防総合訓練大会（新篠津）



平成 8 年 9 月 13 日 中小屋小学校火災



平成 9 年 8 月 11 階共同住宅火災



平成 9 年 北海道消防操法訓練大会
優良賞 新篠津中央分団



平成 10 年 9 月 当別消防庁舎竣工

平成 11 年	4 月	当別消防署新篠津支署、同厚田支署、同浜益支署を消防署に昇格
	5 月	議会議長に当別町議会議員千葉荘康氏、議会副議長に石狩市議会議員成田敏彦氏選任、監査委員（議会選出）に厚田村議会議員成田一夫氏再任
	6 月	厚田消防署に指令車配置
	7 月	集中豪雨により浜益村全域で河川等が氾濫、家屋床下、床上浸水 7 戸、橋台決壊 1 箇所
	8 月	副管理者に石狩市助役青野誠氏選任
平成 12 年	11 月	浜益消防署に救急自動車配置 元厚田消防団副団長畑中久氏、勲六等単光旭日章受章
	3 月	有珠山噴火に伴い、北海道広域消防相互応援協定に基づき、当組合から伊達市、虻田町へ 3 月 30 日～ 5 月 8 日（2 隊延人員 151 名）を派遣
	4 月	消防吏員 171 名、事務職員 5 名 計 176 名
	7 月	当別町にて北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会開催
	8 月	新篠津消防団第 5 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
平成 13 年	11 月	元厚田消防団副団長寺崎光春氏、勲六等単光旭日章受章
	2 月	監査委員（識見を有する者）に片岡弘二氏再任 石狩消防署に指令車配置
	4 月	消防吏員 174 名、事務職員 3 名 計 177 名
	5 月	石狩消防署に連絡車配置
	6 月	石狩北部地区消防事務組合創設 30 周年合同連携訓練実施（当別町道民の森）
平成 14 年	8 月	管理者に当別町長泉亭俊彦氏互選
	9 月	副管理者に当別町助役谷本辰美氏選任
	10 月	消防長熊谷時男氏当別町へ異動、消防長に配野行雄氏就任 石狩北部地区消防事務組合創設 30 周年記念式開催（当別町総合体育館）
	11 月	元浜益消防団長内山末一氏、勲五等双光旭日章受章
	3 月	石狩消防署に資材運搬車配置
平成 15 年	4 月	消防吏員 176 名、事務職員 3 名 計 179 名 元当別消防団長大坪慶春氏、勲五等瑞宝章受章 元浜益消防団分団長竹田武廣氏、勲六等瑞宝章受章
	6 月	新篠津消防署に救助用ボート配置
	8 月	収入役に石狩市収入役星正明氏選任 新篠津消防署に指令車、ボートトレーラー配置
	11 月	当別消防署に高規格救急自動車配置
	12 月	厚田消防団望来分団に小型動力ポンプ付積載車配置
平成 15 年	3 月	消防長配野行雄氏当別町へ異動
	4 月	消防吏員 175 名、事務職員 3 名 計 178 名 消防長に上田誠二氏就任
	5 月	当別消防署にボートトレーラー配置



平成 10 年 8 月 石狩市防災訓練



平成 12 年 3 月 31 日の有珠山噴火に伴う広域応援



組合創設 30 周年記念事業



平成 12 年 札幌地方支部消防総合訓練大会（当別）

- 平成 15 年

6 月

監査委員（議会選出）に新篠津村議会議員砂田博幸氏選任
元当別消防署消防司令大倉幸雄氏、勲六等単光旭日章受章
- 11 月

元新篠津消防団中央分団副分団長中矢佐太雄氏、瑞宝単光章受章
厚田消防団聚富分団に小型動力ポンプ付積載車配置
元当別消防署次長山上嘉平氏、瑞宝単光章授章
元石狩消防署消防司令長渡辺一美氏、瑞宝単光章受章
自治体消防 55 周年記念大会参加（東京）
- 12 月

石狩消防署に広報車 2 台配置
- 平成 16 年

1 月

当別消防署に小型動力ポンプ付水槽車配置
- 2 月

石狩消防署に資機材搬送車配置
- 4 月

消防吏員 176 名、事務職員 2 名 計 178 名
副管理者に当別町助役佐々木保氏選任
- 5 月

消防吏員 176 名、事務職員 3 名 計 179 名
- 10 月

新篠津消防創設 90 周年記念式典開催（新篠津村自治センター）
厚田消防団発足分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 11 月

元新篠津消防署消防司令大友琢夫氏、瑞宝単光章受章
元当別消防署消防司令安榮弘氏、瑞宝単光章受章
元当別消防署消防司令補中西恵士氏、瑞宝単光章受章
元石狩消防署消防司令川口君男氏、瑞宝単光章受章
元石狩消防署消防司令阿部孝廣氏、瑞宝単光章受章
- 平成 17 年

1 月

新篠津消防署に高規格救急自動車配置
- 2 月

監査委員（識見を有する者）に米口稔氏選任
- 4 月

消防吏員 182 名、事務職員 3 名 計 185 名
元新篠津消防団長葛西一雄氏、瑞宝双光章受章
- 6 月

当別町にて石狩川水防公開演習が開催、当組合より消防本部、当別消防署、石狩消防署、当別消防団、厚田消防団、浜益消防団、石狩消防団が参加
元当別消防署消防司令加来榮氏、瑞宝単光章受章
- 8 月

議会副議長に石狩市議会議員中田守氏選任
- 9 月

厚田消防署に高規格救急自動車配置
- 10 月

厚田村、浜益村の石狩市への編入合併により組合構成が当別町、新篠津村、石狩市の 1 市 1 町 1 村となる
石狩消防署北出張所、厚田消防署、浜益消防署を石狩消防署親船支署、厚田支署、浜益支署に改称
- 11 月

元石狩消防団分団長阿部安男氏、瑞宝単光章受章



平成 15 年 当別模擬火災訓練（株式会社コーケン）



新篠津消防創設 90 周年記念式



平成 16 年 11 月 マリーナオオサカ座礁事故



平成 17 年 石狩川水防公開演習（当別）



平成 16 年 ドクターヘリとの連携（新篠津）

- 平成 18 年

3 月

石狩消防団第 5 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 4 月

消防吏員 173 名、事務職員 3 名 計 176 名
消防本部事務所を石狩市に移転
管理者に石狩市長 田岡克介氏就任
規約改正により副管理者 3 名（白井俊氏、近藤充徳氏、白木昭氏）体制
消防長に川端章義氏就任
- 5 月

消防吏員 176 名、事務職員 3 名 計 179 名
- 11 月

石油コンビナート等特別防災区域に石狩地区指定
元当別消防署長瀬戸脩氏、瑞宝双光章受章
元当別消防団分団長山岸重美氏、瑞宝単光章受章
- 平成 19 年

2 月

石狩消防団第 3 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 4 月

消防吏員 170 名、事務職員 5 名 計 175 名
会計管理者に工藤泰雄氏就任
元厚田消防団分団長秋村秀美氏、瑞宝単光章受章
職員定数条例改正により職員の定数は消防吏員 182 名、その他の職員 5 名
消防団条例改正により消防団定数が当別消防団 170 名、新篠津消防団 90 名、
石狩消防団 145 名、厚田消防団 82 名、浜益消防団 93 名
- 6 月

規約改正により議員定数 6 名（各構成市町村 2 名）体制
議会議長に石狩市議会議員長原徳治氏、議会副議長に当別町議会議員桐井伸征氏、
監査委員（議会選出）に新篠津村議会議員北口敬二氏選任
- 7 月

消防本部に広報車配置
石狩消防署に高規格救急自動車配置
- 9 月

消防長川端章義氏石狩市へ異動
- 10 月

消防吏員 171 名、事務職員 5 名 計 176 名
消防長に二社谷康治氏就任
会計管理者に受川克寛氏就任
- 11 月

元石狩消防団長田口卓氏、瑞宝双光章受章
元石狩消防団分団長吉岡亘氏、瑞宝単光章受章
元厚田消防団分団長江本章氏、瑞宝単光章受章
- 12 月

消防吏員 170 名、事務職員 4 名 計 174 名
石狩消防署にボートトレーラー配置
- 平成 20 年

3 月

自治体消防 60 周年記念大会参加（東京）
元石狩消防署消防司令菅原正孝氏、瑞宝単光章受章
- 4 月

消防吏員 168 名、事務職員 4 名 計 172 名
消防団条例改正により消防団定数が当別消防団 170 名、新篠津消防団 90 名、石
狩消防団 320 名



平成 18 年 4 月 消防本部旗引継式



平成 19 年 水難救助訓練（新篠津）



平成 20 年 交通事故（石狩）



平成 18 年 8 月 実施機関連携訓練（石狩）



平成 20 年 交通救助（当別）



平成 20 年 連携訓練（石狩）

- 平成 20 年

6 月

消防吏員 170 名、事務職員 4 名 計 174 名
- 7 月

消防吏員 170 名、事務職員 3 名 計 173 名

北海道洞爺湖サミット(7月5日～11日)開催に伴い、北海道洞爺湖サミット消防・救急体制整備に関する応援協定に基づき、当組合から救急隊 1 隊 6 名(留寿都村)、予防警戒員 1 名(千歳市)の計 7 名を派遣
- 8 月

消防吏員 169 名、事務職員 3 名 計 172 名
- 10 月

消防吏員 170 名、事務職員 3 名 計 173 名
- 11 月

元当別消防団分団長坂井清一氏、瑞宝単光章受章

元石狩消防団長岩山兼吉氏、瑞宝双光章受章
- 12 月

当別消防団第 9 分団詰所新築
- 平成 21 年

2 月

監査委員(識見を有する者)に米口稔氏再任
- 3 月

消防吏員 168 名、事務職員 3 名 計 171 名
- 4 月

消防吏員 164 名、事務職員 3 名 計 167 名

当別町当別夢の国保育園幼年消防クラブ発足(クラブ員 44 名)

元石狩消防団分団長相原敏和氏、瑞宝単光章受章

元石狩消防団長海野友彦氏、瑞宝双光章受章

石狩消防署浜益支署移転
- 5 月

消防吏員 168 名、事務職員 3 名 計 171 名
- 6 月

議会議長に石狩市議会議員千葉正威氏選任
- 8 月

新篠津消防団第 4 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
- 10 月

石狩消防署に泡原液搬送車配置

当別消防署に救助用ボート配置
- 11 月

石狩消防署親船支署に水槽付消防ポンプ自動車配置

元当別消防団長河村和彦氏、瑞宝双光章受章
- 12 月

消防吏員 167 名、事務職員 3 名 計 170 名
- 平成 22 年

2 月

当別消防署に連絡車配置
- 3 月

消防長二社谷康治氏石狩市へ異動

当別消防署に高規格救急自動車配置
- 4 月

消防吏員 166 名、事務職員 3 名 計 169 名

消防長に清野和彦氏、会計管理者に鈴木徳昭氏就任

元当別消防団長新森敏幸氏、瑞宝双光章受章

元石狩消防団長河合雅雄氏、瑞宝小綬章受章

元石狩消防署消防司令吉田一男氏、瑞宝双光章受章
- 5 月

消防吏員 173 名、事務職員 3 名 計 176 名

石狩消防団川下・柏木分団移転
- 9 月

石狩市新港地区にて北海道石油コンビナート等総合防災訓練開催
- 11 月

福島県郡山市にて緊急消防援助隊(北海道・東北ブロック)合同訓練参加

元当別消防団分団長吉田勤氏、瑞宝単光章受章



平成 20 年 北海道洞爺湖サミット警戒



北海道洞爺湖サミットメディアセンター



平成 22 年 高齢者家庭査察(新篠津)



平成 22 年 交通事故(新篠津)



平成 22 年 7 月 送毛トンネル事故



- 平成 23 年

2 月

消防吏員 172 名、事務職員 3 名 計 175 名
- 3 月

東日本大震災被災地に緊急消防援助隊として宮城県石巻市へ 3 月 12 日～ 18 日
(1 隊 6 名) 3 月 22 日～ 27 日 (1 隊 5 名) 4 月 9 日～ 15 日 (1 隊 5 名) 合計
3 隊 16 名を派遣
石狩消防署浜益支署に高規格救急自動車配置
- 4 月

消防吏員 171 名、事務職員 3 名 計 174 名
会計管理者に大塚隆宣氏就任
元当別消防署消防司令佐藤春光氏、瑞宝単光章受章
- 5 月

消防吏員 174 名、事務職員 3 名 計 177 名
- 6 月

議会議長に石狩市議会議員長原徳治氏、議会副議長に当別町議会議員柏樹正氏、
監査委員（議会選出）に新篠津村議会議員今田義春氏選任
消防吏員 173 名、事務職員 3 名 計 176 名
元石狩消防署消防司令長高梨香三氏、瑞宝単光章受章
- 11 月

消防吏員 172 名、事務職員 3 名 計 175 名
元当別消防署消防司令長川口正記氏、瑞宝単光章受章
元石狩消防団副団長福田勲氏、瑞宝単光章受章
- 平成 24 年

4 月

消防吏員 172 名、事務職員 4 名 計 176 名
元石狩消防署消防司令長野勝彦氏、瑞宝単光章受章
元新篠津消防団長市川英男氏、瑞宝双光章受章
元石狩消防団分団長奥寺孝一郎氏、瑞宝単光章受章
- 5 月

消防吏員 175 名、事務職員 4 名 計 179 名
- 6 月

IFCAA2012SAPPORO 国際消防救助隊合同訓練（6 月 21・22 日）開催に伴い、
当組合から救助工作隊 1 隊 5 名、後方支援 1 名の計 6 名を派遣
- 8 月

消防吏員 174 名、事務職員 4 名 計 178 名
- 10 月

消防吏員 175 名、事務職員 4 名 計 179 名
- 11 月

消防吏員 174 名、事務職員 4 名 計 178 名
元当別消防署消防司令小畑留雄氏、瑞宝単光章受章
元石狩消防署消防司令宮岸茂氏、瑞宝単光章受章
- 12 月

石狩消防署に水槽付消防ポンプ自動車配置
石狩消防団第 4 分団移転
- 平成 25 年

2 月

監査委員（識見を有する者）に秋吉義雄氏選任
- 4 月

消防吏員 172 名、事務職員 4 名 計 176 名
元石狩消防署消防司令補今正美氏、瑞宝単光章受章
- 6 月

議会議長に石狩市議会議員米林渙昭氏選任
当別消防創設 100 周年記念式典開催（当別町総合体育館）



東日本大震災 緊急消防援助隊として宮城県石巻市へ派遣



IFCAA2012SAPPORO 国際消防救助隊合同訓練

- 平成 25 年
- 8 月
- 副管理者に新篠津村副村長窪田守氏就任
- 10 月
- 消防指令センター運用開始
- 苦小牧市にて緊急消防援助隊（北海道・東北ブロック）合同訓練参加
- 11 月
- 消防団 120 年・自治体消防 65 周年記念大会参加（東京）
- 元当別消防署長田畑耕司氏、瑞宝双光章受章
- 元石狩消防署消防司令長石橋俊一氏、瑞宝双光章受章
- 元石狩消防団分団長河合英治氏、瑞宝単光章受章
- 平成 26 年
- 4 月
- 消防吏員 175 名、事務職員 3 名 計 178 名
- 元石狩消防団分団長栗生新一氏、瑞宝単光章受章
- 8 月
- 石狩消防署石狩湾新港支署を開署し、石狩消防団第 1 分団第 1 部移転、大型高所放水車配置
- 10 月
- 新篠津消防創設 100 周年記念式典開催（新篠津村 B&G 海洋センター体育館）
- 11 月
- 元当別消防署長岸田良夫氏、瑞宝単光章受章
- 元石狩消防署消防司令水野幸徳氏、瑞宝単光章受章
- 元石狩消防団副団長瀧内幸一氏、瑞宝単光章受章
- 平成 27 年
- 3 月
- 消防長清野和彦氏退職
- 4 月
- 消防吏員 176 名、事務職員 2 名 計 178 名
- 消防長に内藤廣之氏就任
- 消防団条例改正により消防団定数が当別消防団 170 名、新篠津消防団 90 名、石狩消防団 285 名
- 当別町ふとみ保育所幼年消防クラブ発足（クラブ員 90 名）
- 元石狩消防団分団長上山巖氏、瑞宝単光章受章
- 5 月
- 消防吏員 178 名、事務職員 2 名 計 180 名
- 6 月
- 議会議長に石狩市議会議員日下部勝義氏、議会副議長に当別町議会議員市川正氏、監査委員（議会選出）に新篠津村議会議員藤永康夫氏選任
- 11 月
- 元当別消防署消防司令高島貞男氏、瑞宝単光章受章
- 元石狩消防署消防司令工藤和視氏、瑞宝単光章受章
- 元石狩消防団副団長高橋秋夫氏、瑞宝単光章受章
- 12 月
- 当別消防署に救助用ボート配置
- 平成 28 年
- 2 月
- 石狩消防署石狩湾新港支署に高規格救急自動車配置
- 3 月
- 新篠津消防団中央分団に水槽付消防ポンプ自動車配置
- 4 月
- 消防吏員 176 名、事務職員 2 名、再任用職員 2 名 計 180 名
- 公益財団法人北海道消防協会札幌地方支部内消防団相互応援協定締結
- 元石狩消防団分団長高田進氏、瑞宝単光章受章



平成 25 年 8 月 消防指令センター運用開始



平成 27 年度 石油コンビナート火災関係機関連携訓練



平成 26 年度 組合研修（救助）



平成 28 年度 救助隊員養成訓練（当別）

平成 28 年	5 月	消防吏員 180 名、事務職員 2 名、再任用職員 2 名 計 184 名
	6 月	第 22 回全国女性消防団員活性化北海道大会参加（札幌市）
	9 月	札幌市総合防災訓練（南区）へ札幌地方支部内消防団相互応援協定締結に伴い当別消防団（3 名）、新篠津消防団（7 名）、石狩消防団（7 名）が訓練に参加
	11 月	元新篠津消防署長正木博氏、瑞宝単光章受章 元当別消防団長青井國夫氏、瑞宝双光章受章 元当別消防署消防司令田川春見氏、瑞宝単光章受章 元石狩消防団分団長高木徹氏、瑞宝単光章受章
平成 29 年	2 月	監査委員（識見を有する者）に西村良伸氏選任 当別消防署に高規格救急自動車配置
	4 月	消防吏員 180 名、事務職員 2 名、再任用職員 5 名 計 187 名 元当別消防署消防司令百石正志氏、瑞宝単光章受章 元石狩消防団副団長酒井幸治氏、瑞宝単光章受章
	5 月	消防吏員 182 名、事務職員 2 名、再任用職員 5 名 計 189 名
	6 月	議会議長に石狩市議会議員青山祐幸氏、監査委員（議会選出）に新篠津村議会議員高橋孝志氏選任
	7 月	石狩消防団第 5 分団移転
	8 月	副管理者に新篠津村副村長古谷直樹氏就任
	10 月	消防吏員 181 名、事務職員 2 名、再任用職員 5 名 計 188 名
	11 月	元新篠津消防団副団長北川忠氏、瑞宝単光章受章 元当別消防署長川邊保夫氏、瑞宝単光章受章 元石狩消防署消防司令竹田明男氏、瑞宝単光章受章 元石狩消防団分団長畑中正氏、瑞宝単光章受章 元石狩消防団副分団長相澤武夫氏、瑞宝単光章受章 当別消防署に資機材搬送車配置
	平成 30 年 2 月	石狩消防署に高規格救急自動車配置
	3 月	消防長内藤廣之氏退職
	4 月	消防吏員 179 名、事務職員 2 名、再任用職員 4 名 計 185 名 消防長に市園博行氏就任
平成 30 年	5 月	消防吏員 182 名、事務職員 2 名、再任用職員 4 名 計 188 名 新篠津消防署に連絡車配置
	7 月	石狩消防署に救助用ボート配置
	8 月	石狩市にて第 70 回北海道消防大会開催 総勢 2,232 名
	11 月	元新篠津消防団副団長田代勝美氏、瑞宝単光章受章 元新篠津消防署長板垣一男氏、瑞宝単光章受章 元石狩消防団副団長窪田良一氏、瑞宝単光章受章 福島県いわき市緊急消防援助隊（北海道・東北ブロック）合同訓練参加
平成 30 年	12 月	消防吏員 181 名、事務職員 2 名、再任用職員 4 名 計 187 名
	平成 31 年 3 月	石狩消防署に救助工作車配置



平成 29 年度 道央 7 消防本部連携訓練



平成 29 年度 5 機関合同水難救助訓練（石狩）



平成 31 年 夕張市石炭博物館模擬坑道火災



第 70 回 北海道消防大会（石狩）

平成 31 年	4 月	消防吏員 177 名、事務職員 1 名、再任用職員 7 名 計 185 名 会計管理者に蝦谷学俊氏就任 夕張市石炭博物館模擬坑道火災に伴い、北海道広域応援協定により夕張市へ 4 月 21 日～ 22 日（1 隊 5 名）4 月 24 日～ 25 日（1 隊 4 名）4 月 27 日～ 28 日（1 隊 4 名）5 月 1 日～ 2 日（1 隊 4 名）合計 4 隊 17 名派遣
令和 元 年	5 月	消防吏員 183 名、事務職員 1 名、再任用職員 7 名 計 191 名 元石狩消防署消防司令中川昌時氏、瑞宝単光章受章
	6 月	管理者に石狩市長加藤龍幸氏就任 議会議長に石狩市議会議員蜂谷三雄氏、議会副議長に当別町議会議員岡野喜代治氏、監査委員（議会選出）に新篠津村議会議員高橋孝志氏、監査委員（識見を有する者）に白井應隆氏選任
	10 月	G20 観光大臣会合の消防特別警戒のため、倶知安町へ延べ 3 隊 12 名派遣
	11 月	元当別消防署消防司令髭右近栄三郎氏、瑞宝単光章受章 元消防長清野和彦氏、瑞宝双光章受章
	12 月	石狩消防署に化学消防ポンプ自動車配置
令和 2 年	2 月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い特別警戒体制発令、警防指揮本部設置及び各署に部隊指揮本部設置 新篠津消防署に高規格救急自動車配置 当別消防団第 6 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	3 月	消防長市園博行氏石狩市へ異動 当別消防団第 8 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	4 月	消防吏員 183 名、事務職員 1 名、再任用職員 9 名 計 193 名 消防長に新岡研一郎氏就任 元消防本部次長大塚由明氏、瑞宝双光章受章 元新篠津消防団長野村邦男氏、瑞宝双光章受章 元石狩消防団発足分団長井川春美氏、瑞宝単光章受章
	5 月	消防吏員 184 名、事務職員 1 名、再任用職員 9 名 計 194 名
	6 月	当別消防署に連絡車配置
	10 月	夕張市消防本部新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、北海道広域消防相互応援協定を参考とし、夕張市へ 10 月 20 日（1 隊 4 名）10 月 27 日～ 28 日（1 隊 4 名）合計 2 隊 8 名派遣
	11 月	元当別消防団長鰐渕啓一氏、瑞宝双光章受章 元石狩消防署消防司令補棟方英雄氏、瑞宝単光章受章
	12 月	当別消防団第 3 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
令和 3 年	1 月	石狩消防署に高規格救急自動車配置
	2 月	当別消防団第 9 分団に小型動力ポンプ付積載車配置
	3 月	石狩消防署に小型動力ポンプ付水槽車配置



チャレンジ 消防博士（当別）



大型高所放水車（石狩）



令和 3 年 新石狩 5（高規格救急車）



令和 3 年 新石狩 22（小型動力ポンプ付水槽車）

第3章 各種業務



救 急 編



救 急 業 務

当組合では、複雑多様化する救急業務に対応するため、救急業務の高度化の推進を図っています。救急資格者の充実や資質の向上、研修会及び勉強会の企画を行い、救急救命士の生涯教育をより充実したものにする事で、災害対応力の向上を積極的に行っています。



救 急 出 動



救 急 訓 練

当組合は3署で構成されていますが、3署同士が密接に関わりあう機会が多くありません。年に数回1つの場所に集い訓練に励むことでお互いの自己研鑽に努めています。



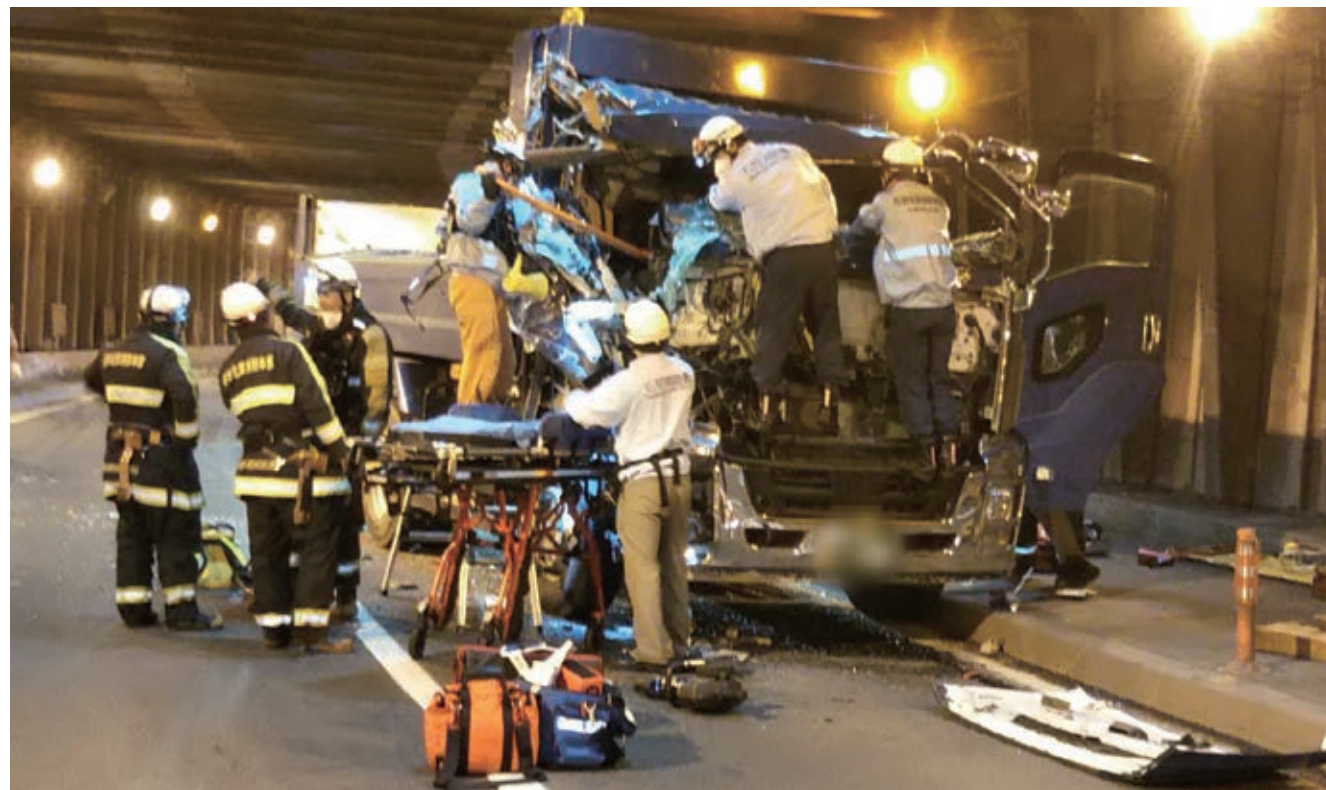
研修会・事例検討会

当組合では、勤務日に実施している訓練のみだけでなく、勤務時間外で様々な研修を実施しております。その分野は多岐にわたり、消防隊・救助隊と連携して実施するものや救急救命士の特定行為に特化し実施するものなどがあります。

また、当消防本部は札幌市に隣接しており、搬送先医療機関を選定する場合には管内（組合管内）のみならず、札幌市に所在する病院への搬送が多くあることが現状です。受け入れ病院のドクターやナースと研修会という形で交流を図ることで連携を強化し、より良い救急活動を心がけています。



救 助 編



救 助 業 務

当組合では、石狩消防署及び当別消防署に救助隊（水難救助隊を含む）を配備し、災害・事故現場における人命救助活動にあたっています。管轄する区域には、道内有数の海水浴場あそびーち石狩や道央圏の物流の動脈ともいえる国道 337 号、JR 学園都市線、工場地帯である石狩湾新港、道民の森をはじめとする山林等があり、発生する救助事案は火災や交通救助はもちろんのこと、水難や山岳、機械事故と多種多様です。救助隊はいかなる現場に直面しても、安全・確実・迅速に人命救助を行うことができるよう日々の業務にあたっています。



救 助 出 動



消防救助技術指導会

全国消防救助技術大会（全道消防救助技術指導会）は、救助技術の高度化に必要な基礎の錬磨を通じて、活動に不可欠な体力や精神力、技術力を養うとともに、全国の隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる隊員を育成し、全国市民の消防に寄せる期待に応えることを目的として全国消防協会が昭和 47 年から毎年開催しているものです。

当組合は昭和 60 年から出場し、ロープ応用登はん及びロープ登はん、ロープ渡過部門で全国大会出場を果たしているほか、現在もロープ応用登はん及びほふく救出に出場しています。



定期訓練・研修等

多様化、複雑化する救助現場に対応すべく、当組合では消防隊と同様に訓練実施計画を作成し、想定訓練や車両・資機材の取扱い訓練、車両救助訓練、水難救助訓練を行っています。研修としては組合救助研修の開催や消防救助事例研究会・各種講習会へ参加し救助の知識技術の研鑽に努めています。この他には消防長査閲や新任潜水隊員養成訓練等を実施しています。



各機関との連携訓練

救助活動に特化した連携訓練として、5 機関合同水難救助訓練や道央 7 消防本部連携訓練、防災航空室合同救助訓練、管内事業所協力の救助訓練等を実施し、各機関との連携強化、救助活動の円滑化を図っています。



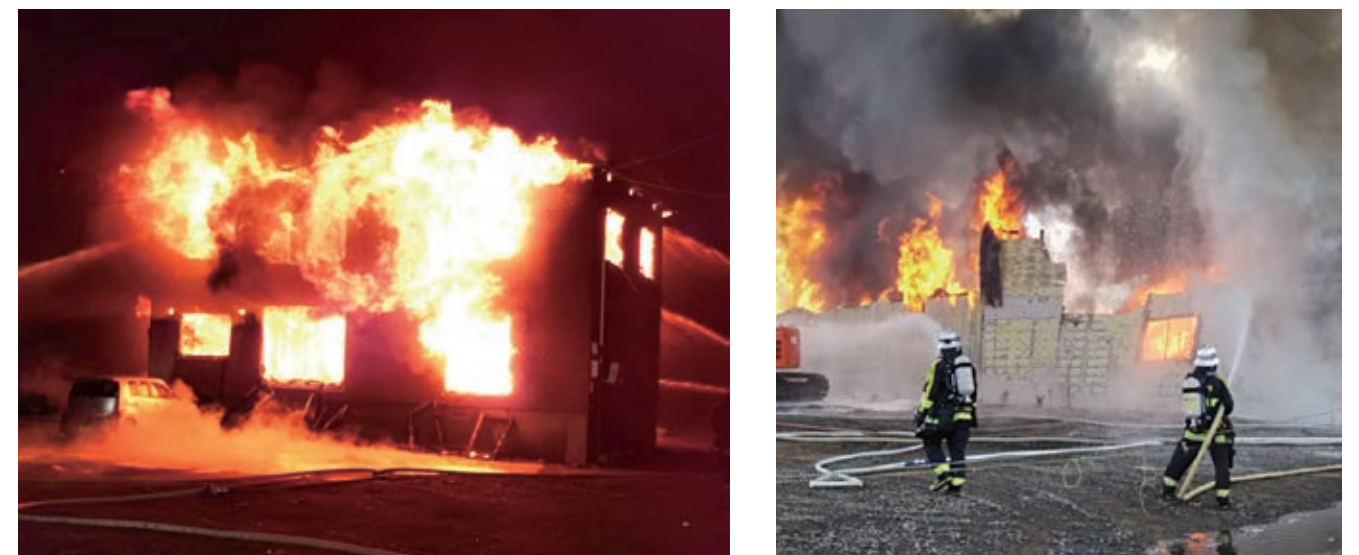
警 防 編



警 防 業 務

警防業務の中心ともいえるのが火災をはじめとする各種災害対応業務です。全国的に見て災害は、防火安全性能の向上や住宅火災警報器の普及で火災が減少傾向となっている一方、地球温暖化等の影響により自然災害は増加し、また、科学進歩による社会態様の変化により、従前の知識や技術だけでは対応できない災害も増加しています。大規模化・複雑多様化が進む災害から住民の生命、財産を守り、被害を最小に食い止めることを目的として職員全体で連携し日々の災害対応にあたっています。

各種災害対応業務以外にも警防業務として各種訓練や水利の維持管理、車両・資機材の導入、各機関との連携調整等を行っています。



災 害 出 動



緊急消防援助隊派遣・広域応援派遣

当組合は消防組織法に基づき、緊急消防援助隊制度への登録及び北海道広域消防相互応援協定の締結をしており、現地の消防力では対応しきれないような大規模災害や特殊災害等の発生時には応援隊の派遣並びに応援隊の受入を行います。現在、当組合では緊急消防援助隊として8隊、広域応援隊として隊を登録しています。

平成23年3月11日に発災した東日本大震災では緊急消防援助隊として宮城県石巻市へ20日間に渡り3隊16名を派遣、平成31年4月18日に発災した夕張市石炭博物館模擬坑道火災では広域応援隊として8日間に渡り4隊17名を派遣しました。



各機関との連携・合同訓練

当組合は管轄区域内に海や湖、河川、山林が広がっているほか、石油コンビナートやガスターミナル、火力発電所、ダム等の施設を抱えているため、想定される災害は多種多様で複雑化・大規模化が進んでいます。保有する消防力だけでは対応しきれないような災害が発生した場合には、近隣市町村や全道、全国の消防ならびに警察や自衛隊、役所・役場、各施設関係者と協力し災害対応にあたります。そこで、各機関との連携強化や災害対応力の向上を目的として連携訓練を実施しています。



定期訓練・研修等

いつ何時発生するかわからない災害に対し、常に冷静沈着に対応することができる知識、技術、体力及び精神力を培うため日々訓練に励んでいます。

各署、支署では勤務中の限られた訓練時間を効率的に活用するため月毎に訓練実施計画を作成し、火災や自然災害、各種事故現場を想定した訓練や車両、資機材の取扱い訓練、大規模な災害を想定した机上訓練等、様々な内容の定期訓練を実施しています。また、定期訓練では実施することが難しい実際の住宅等を用いた訓練や専門的知識、技術の習得を目指した訓練については、研修として定期訓練とは別に計画し実施しています。この他にも日々の訓練成果を確認するため、消防長査閲等を実施しています。



消防団編



石狩消防団

昭和 23 年 3 月、消防組織法の施行により石狩町消防団と改組し、昭和 47 年 4 月に石狩北部地区消防事務組合に加入して石狩消防団と改称しました。平成 17 年に石狩市・厚田村・浜益村が市町村合併し、平成 20 年 4 月に 1 市 2 村の消防団の統合により、本団及び 18 分団で構成された石狩消防団となりました。



当別消防団

昭和 22 年 4 月勅令第 185 号により消防団令が公布され、警防団から消防団へと改組して、定員 290 名、8 分団編成、初代消防団長に土川堅氏が就任しました。

昭和 24 年 4 月 1 日、消防組織法、消防法に基づいて当別町消防団を設置しました。

現在の当別消防団の組織は、9 分団制に強化され、団長以下 170 名の定数が配置されています。



新篠津消防団

昭和 22 年に公布された消防団令を皮切りに、警防団を解散とし消防団と改め、初代団長に窪田喜作氏が就任し、再出発を果たしました。

昭和 23 年 12 月、新篠津消防団は本部のほかに 4 分団を増設し、定員 96 名、本部 16 名、第 1 分団 13 名、第 2 分団 25 名、第 3 分団 29 名、第 4 分団 13 名で自治体消防を発足させました。



通信指令編

消防指令センターでは石狩市、当別町、新篠津村における 119 番通報を受付けています。

平成 31 年（令和元年）の受付件数は 7,639 件で 1 日平均 21 件、そのうち出動指令を要したものは 4,101 件で、管内人口の 18 人に 1 人が災害通報したことになります。



車両動態管理・統合型位置情報通知システムとは

消防指令センターには 2 つの特徴的なシステムがあります。1 つ目が車両動態管理システムです。

このシステムは車両が出動した時や現場に到着した時、業務時などに指令センターに設置している大型モニターに反映され、車両の状態を確認することができるシステムです。

また指令台の地図モニターとも連動しており、車両がどこを走行しているのか把握できるようになっています。2 つ目が統合型位置情報通知システムです。このシステムは固定電話、携帯電話から 119 通報をした時に、通報者がどこから掛けてきたのかを通知するシステムです。例えば携帯電話から 119 通報を行うと地図モニターに位置情報の円が表示されます。この円は通報者の現在地を示しており、おおよそ円の中にいることを示しています。GPS 機能を ON にすると精度は上がり数 m の範囲で位置情報を取得することが可能です。反対に GPS 機能が OFF になっていたり山の中など電波の悪い場所にいると数百 m から数万 m でしか位置情報を取得できないこともあります。



左から「車両運用表示盤」、「多目的表示盤」、「支援情報表示盤」

石狩消防署	石狩消防署	当別消防署
石狩1 出動	石狩消防署 出動	当別1 出動
石狩2 出動	石狩消防署 出動	当別2 出動
石狩3 出動	石狩消防署 出動	当別3 出動
石狩4 出動	石狩消防署 出動	当別4 出動
石狩5 出動	石狩消防署 出動	当別5 出動
石狩6 出動	石狩消防署 出動	当別6 出動
石狩7 出動	石狩消防署 出動	当別7 出動
石狩8 出動	石狩消防署 出動	当別8 出動
石狩9 出動	石狩消防署 出動	当別9 出動
石狩10 出動	石狩消防署 出動	当別10 出動
石狩11 出動	石狩消防署 出動	当別11 出動
石狩12 出動	石狩消防署 出動	当別12 出動
石狩13 出動	石狩消防署 出動	当別13 出動
石狩14 出動	石狩消防署 出動	当別14 出動
石狩15 出動	石狩消防署 出動	当別15 出動
石狩16 出動	石狩消防署 出動	当別16 出動
石狩17 出動	石狩消防署 出動	当別17 出動
石狩18 出動	石狩消防署 出動	当別18 出動
石狩19 出動	石狩消防署 出動	当別19 出動
石狩20 出動	石狩消防署 出動	当別20 出動
石狩21 出動	石狩消防署 出動	当別21 出動
石狩22 出動	石狩消防署 出動	当別22 出動
石狩23 出動	石狩消防署 出動	当別23 出動
石狩24 出動	石狩消防署 出動	当別24 出動
石狩25 出動	石狩消防署 出動	当別25 出動
石狩26 出動	石狩消防署 出動	当別26 出動
石狩27 出動	石狩消防署 出動	当別27 出動
石狩28 出動	石狩消防署 出動	当別28 出動
石狩29 出動	石狩消防署 出動	当別29 出動
石狩30 出動	石狩消防署 出動	当別30 出動
石狩31 出動	石狩消防署 出動	当別31 出動
石狩32 出動	石狩消防署 出動	当別32 出動
石狩33 出動	石狩消防署 出動	当別33 出動
石狩34 出動	石狩消防署 出動	当別34 出動
石狩35 出動	石狩消防署 出動	当別35 出動
石狩36 出動	石狩消防署 出動	当別36 出動
石狩37 出動	石狩消防署 出動	当別37 出動
石狩38 出動	石狩消防署 出動	当別38 出動
石狩39 出動	石狩消防署 出動	当別39 出動
石狩40 出動	石狩消防署 出動	当別40 出動
石狩41 出動	石狩消防署 出動	当別41 出動
石狩42 出動	石狩消防署 出動	当別42 出動
石狩43 出動	石狩消防署 出動	当別43 出動
石狩44 出動	石狩消防署 出動	当別44 出動
石狩45 出動	石狩消防署 出動	当別45 出動
石狩46 出動	石狩消防署 出動	当別46 出動
石狩47 出動	石狩消防署 出動	当別47 出動
石狩48 出動	石狩消防署 出動	当別48 出動
石狩49 出動	石狩消防署 出動	当別49 出動
石狩50 出動	石狩消防署 出動	当別50 出動
石狩51 出動	石狩消防署 出動	当別51 出動
石狩52 出動	石狩消防署 出動	当別52 出動
石狩53 出動	石狩消防署 出動	当別53 出動
石狩54 出動	石狩消防署 出動	当別54 出動
石狩55 出動	石狩消防署 出動	当別55 出動
石狩56 出動	石狩消防署 出動	当別56 出動
石狩57 出動	石狩消防署 出動	当別57 出動
石狩58 出動	石狩消防署 出動	当別58 出動
石狩59 出動	石狩消防署 出動	当別59 出動
石狩60 出動	石狩消防署 出動	当別60 出動
石狩61 出動	石狩消防署 出動	当別61 出動
石狩62 出動	石狩消防署 出動	当別62 出動
石狩63 出動	石狩消防署 出動	当別63 出動
石狩64 出動	石狩消防署 出動	当別64 出動
石狩65 出動	石狩消防署 出動	当別65 出動
石狩66 出動	石狩消防署 出動	当別66 出動
石狩67 出動	石狩消防署 出動	当別67 出動
石狩68 出動	石狩消防署 出動	当別68 出動
石狩69 出動	石狩消防署 出動	当別69 出動
石狩70 出動	石狩消防署 出動	当別70 出動
石狩71 出動	石狩消防署 出動	当別71 出動
石狩72 出動	石狩消防署 出動	当別72 出動
石狩73 出動	石狩消防署 出動	当別73 出動
石狩74 出動	石狩消防署 出動	当別74 出動
石狩75 出動	石狩消防署 出動	当別75 出動
石狩76 出動	石狩消防署 出動	当別76 出動
石狩77 出動	石狩消防署 出動	当別77 出動
石狩78 出動	石狩消防署 出動	当別78 出動
石狩79 出動	石狩消防署 出動	当別79 出動
石狩80 出動	石狩消防署 出動	当別80 出動
石狩81 出動	石狩消防署 出動	当別81 出動
石狩82 出動	石狩消防署 出動	当別82 出動
石狩83 出動	石狩消防署 出動	当別83 出動
石狩84 出動	石狩消防署 出動	当別84 出動
石狩85 出動	石狩消防署 出動	当別85 出動
石狩86 出動	石狩消防署 出動	当別86 出動
石狩87 出動	石狩消防署 出動	当別87 出動
石狩88 出動	石狩消防署 出動	当別88 出動
石狩89 出動	石狩消防署 出動	当別89 出動
石狩90 出動	石狩消防署 出動	当別90 出動
石狩91 出動	石狩消防署 出動	当別91 出動
石狩92 出動	石狩消防署 出動	当別92 出動
石狩93 出動	石狩消防署 出動	当別93 出動
石狩94 出動	石狩消防署 出動	当別94 出動
石狩95 出動	石狩消防署 出動	当別95 出動
石狩96 出動	石狩消防署 出動	当別96 出動
石狩97 出動	石狩消防署 出動	当別97 出動
石狩98 出動	石狩消防署 出動	当別98 出動
石狩99 出動	石狩消防署 出動	当別99 出動
石狩100 出動	石狩消防署 出動	当別100 出動

車両運用表示盤による動態管理



携帯電話からの位置情報通知

受 報 の 様 子

119 番入電時は受付、指令機器操作による現場の特定と指令、モニター機能を用いて通報内容を受付者以外も聴取するという役割分担をして対応しています。入電から指令までは平均して約 1 分半で指令をかけています。

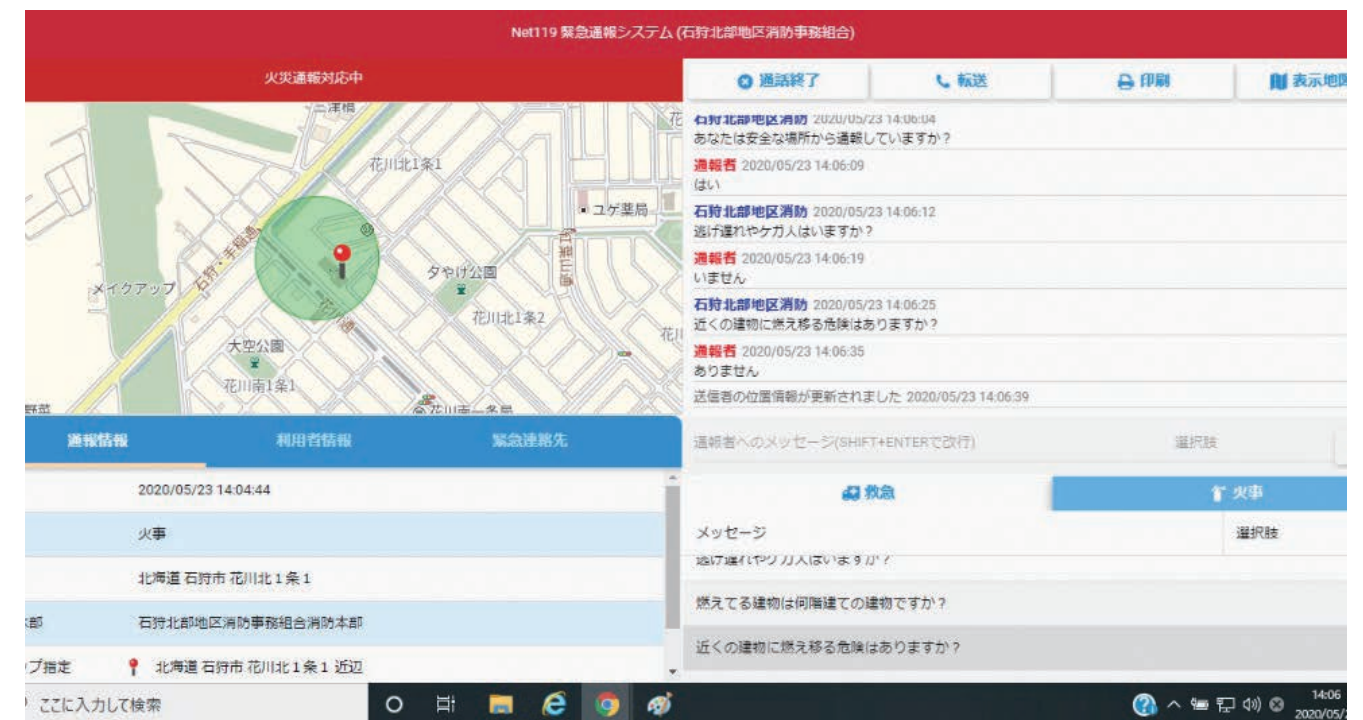
119 番通報受付の第 1 優先は「住所の特定」です。そのため通報者にはまず住所を的確に伝えてもらうこと、そして早く指令をかけるために通報者が一方的に話すのではなく、基本的にはこちらの質問に答えてもらうことが重要になります。

災害は多種多様であり、指令員も迅速に対応できるよう日頃から受報訓練を実施しています。



音声通報以外の 119 要請方法

NET119 は聴覚障害や言語障害等で音声通話による 119 番通報が困難な方でも携帯電話、スマートフォン、タブレットから 119 番通報することが出来るシステムです。端末の GPS 機能を ON にして通報することにより、消防指令センターで通報者の位置情報を取得することができます。通報受け後は通報者とチャット機能を用いて要請内容を詳しく確認することができます。



チャット機能を活用した通報者との 119 番通報受付

メール119は携帯電話、パソコン等のEメール機能を用いて行う119通報システムです。
FAX119は電話のFAX機能を使用した119通報システムです。両システムとも通報時は①火災か
救急か②発生場所、③近くの目標物、④現在の状況、⑤年齢、性別、病歴を伝える必要があります。

A form for FAX119. It includes fields for name (火消 清水), address (石狩市 新緑津村), apartment name (〇〇マンション), room number (〇号室), and phone number (0133-〇〇-〇〇〇〇). There are checkboxes for '火事です' (Fire) and '救急です' (Emergency). Under '救急です', there are checkboxes for '自分' (Self), '他人' (Other person), and '動物' (Animal). There are also checkboxes for '火事' (Fire), 'ガス' (Gas), 'その他' (Other), and 'その他' (Other).

FAX119 用通報用紙

A form for Email 119. It includes fields for name (火消 清水), address (石狩市 新緑津村), apartment name (〇〇マンション), room number (〇号室), and phone number (0133-〇〇-〇〇〇〇). There are checkboxes for '火事です' (Fire) and '救急です' (Emergency). Under '救急です', there are checkboxes for '自分' (Self), '他人' (Other person), and '動物' (Animal). There are also checkboxes for '火事' (Fire), 'ガス' (Gas), 'その他' (Other), and 'その他' (Other).

メール 119 用申請用紙

多言語通訳コールセンターは災害現場において、日本語が話せない外国人からの情報収集が必要となり、周囲に日本語の対応が可能な協力者がおらず、状況聴取が困難な場合に有線で直接多言語通訳コールセンターへ連絡し、通訳者を介して対応するシステムです。



多言語通訳コールセンターを活用した入電対応

予 防 編



予 防 業 務

建物の消防用設備、危険物施設の検査を実施し防火上安全な設備の維持管理をすることや、類似火災を出さないために火災の原因を調査し、防火広報やパトロールを実施することで安全なまちづくりを目指しています。



火 災 予 防 運 動

当組合管内の住民に対する防火防災意識の向上のため、火災予防運動の一環として防火啓蒙イベントを開催し、初期消火訓練や煙体験活動、火災実験セット、大型高所放水車の乗車体験など多岐にわたり啓蒙活動を実施することで、より多くの住民に対し火災予防をアピールし災害に強いまちづくりを目指すものです。



火災原因調査・対象物査察

火災原因調査は、火災が発生した原因を明らかにすることであり、判明した原因を基に広報活動を実施することで、同じ火災が二度と発生しないように住民に呼びかけるもので、消防が担う業務の中でも大きな役割を果たしております。

消防法に基づき百貨店や病院、工場等へ立入検査を行います。屋内消火栓設備や自動火災報知設備等の消防用設備等の設置・維持管理状況や防火管理体制について検査を行い、法令違反であれば、早期改善を促す指導を行います。違反が是正されない場合は、警告・命令等の違反処理を実施します。



各種イベント



石狩まるごとフェスタ

夏に新港地区で開催されるフェスタ会場に消防ブースを設置し、消火器体験・煙体験及び写真撮影など火災予防広報を実施しています。



幼年少年消防クラブ（ちびっこ消防広場）

年に一回研修などを行い、クラブ員の交流を深め、楽しみながら防火防災意識の高揚を目的として活動しています。



防火パレード

火災予防運動期間中、管内一円を消防職団員が消防車両で火災予防広報を実施しています。



ふるさと祭り

市内各所の秋まつり会場に消防ブースを設置し、火災予防広報と消防団PRを実施しています。



初期消火訓練

いざという時に消火器を使用できるように、住民向けの消火器使用訓練を行っています。



防火衣着装体験

市内大型店舗や各イベント会場で防火服を着てミニ消防車と記念写真撮影会を実施しています。

第4章 消防施設・消防車両



石狩北部地区消防事務組合消防本部・石狩消防署



建築年月日 昭和 54 年 4 月 22 日
構 造 鉄筋コンクリート造 5 階建

石狩 2
(化学消防ポンプ自動車Ⅱ型)

車 名	日野
型 式	2PG-FH1AGA 改
長 さ	843cm
幅	250cm
高 さ	318cm
排 気 量	8,860cc
初年度登録	R1.12





石狩 1（指揮車）	
車 名	ニッサン
型 式	ABF-SK82MN
長 さ	429cm
幅	169cm
高 さ	208cm
排 気 量	1,780cc
初年度登録	H22.1



石狩 17（大型高所放水車）	
車 名	日野
型 式	QDC-FR1APBA 改
長 さ	1,012cm
幅	249cm
高 さ	359cm
排 気 量	8,860cc
初年度登録	H26.8

石狩 6（救助工作車）	
車 名	日野
型 式	2KG-GX2ABA
長 さ	781cm
幅	230cm
高 さ	314cm
排 気 量	5,120cc
初年度登録	H31.3



石狩 18（資材運搬車）	
車 名	三菱
型 式	KK-FG53EB
長 さ	495cm
幅	189cm
高 さ	245cm
排 気 量	5,240cc
初年度登録	H14.3



石狩 14（泡原液搬送車）	
車 名	日野
型 式	BKG-GD7JGYA
長 さ	658cm
幅	229cm
高 さ	265cm
排 気 量	6,400cc
初年度登録	H21.10

石狩 33（広報車）	
車 名	トヨタ
型 式	CBF-TRH226K
長 さ	539cm
幅	188cm
高 さ	246cm
排 気 量	2,690cc
初年度登録	R2.1





(救助用ボート)	
型 式	アキレス HB-490
長 さ	441cm
幅	195cm
深 さ	75cm
初年度登録	H30.7

(ボートトレーラー)	
車 名	ミッドウエスト
長 さ	552cm
幅	223cm
高 さ	92cm
初年度登録	H19.11

石狩消防署 石狩湾新港支署



建築年月日	平成 26 年 2 月 15 日
構 造	鉄筋コンクリート造 5 階建

石狩新港 2
(水槽付消防ポンプ自動車)

車 名	日野
型 式	QKG-FH1AHAA 改
長 さ	752cm
幅	249cm
高 さ	317cm
排 気 量	8,860cc
初年度登録	H24.12





石狩新港 4
(化学消防ポンプ自動車Ⅴ型)

車名	日野
型式	KC-FW4FRDA 改
長さ	993cm
幅	249cm
高さ	326cm
排気量	20,780cc
初年度登録	H8.3

石狩新港 11 (指令車)

車名	トヨタ
型式	GF-UZJ100W
長さ	512cm
幅	169cm
高さ	208cm
排気量	1,780cc
初年度登録	H13.2



石狩新港 5 (高規格救急車)

車名	日産
型式	CBF-FPWGE50 改
長さ	564cm
幅	190cm
高さ	270cm
排気量	3,490cc
初年度登録	H28.1

石狩消防署 厚田支署



建築年月日	平成 2 年 12 月 25 日
構造	鉄筋コンクリート造 2 階建

厚田 2
(水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型)

車名	日野
型式	KC-FT1JGBL 改
長さ	782cm
幅	249cm
高さ	336cm
排気量	7,960cc
初年度登録	H11.2





厚田 22
(小型動力ポンプ付水槽車)

車 名	ニッサンディーゼル
型 式	U-CW520HVD 改
長 さ	752cm
幅	249cm
高 さ	315cm
排 気 量	16,990cc
初年度登録	H3.11

厚田 11 (指令車)

車 名	トヨタ
型 式	KD-KZJ95W
長 さ	467cm
幅	182cm
高 さ	203cm
排 気 量	2,980cc
初年度登録	H11.6



厚田 5 (高規格救急車)

車 名	ニッサン
型 式	FPWGE50-006818
長 さ	564cm
幅	190cm
高 さ	270cm
排 気 量	3,500cc
初年度登録	H30.2

石 狩 消 防 署 浜 益 支 署



建 築 年 月 日	平成 6 年 10 月 31 日
構 造	鉄筋コンクリート造地下 1 階地上 3 階建

浜益 2
(水槽付消防ポンプ自動車)

車 名	日野
型 式	BDG-FH1AHXA 改
長 さ	770cm
幅	249cm
高 さ	293cm
排 気 量	8,860cc
初年度登録	H21.11





浜益 15（資機材運搬車）	
車 名	トヨタ
型 式	N-HJ60V 改
長 さ	499cm
幅	180cm
高 さ	235cm
排 気 量	3,980cc
初年度登録	S62.10

浜益 5（高規格救急車）	
車 名	トヨタ
型 式	CBF-FPWGE50 改
長 さ	564cm
幅	190cm
高 さ	251cm
排 気 量	3,490cc
初年度登録	H23.2



建築年月日	平成 10 年 9 月 30 日
構 造	鉄筋コンクリート造 2 階建

当別 2 （水槽付消防ポンプ自動車）	
車 名	日野
型 式	QKG-FH1AHAA 改
長 さ	778cm
幅	249cm
高 さ	317cm
排 気 量	8,860cc
初年度登録	H26.7





当別 1（指揮車）	
車 名	トヨタ
型 式	KC-KZH138S
長 さ	536cm
幅	170cm
高 さ	241cm
排 気 量	2,980cc
初年度登録	H9.9

当別 5（高規格救急自動車）	
車 名	トヨタ
型 式	CBF-TRH226S
長 さ	565cm
幅	188cm
高 さ	252cm
排 気 量	2,690cc
初年度登録	H29.2



当別 11（指揮広報車）	
車 名	三菱
型 式	LDA-V98W
長 さ	492cm
幅	187cm
高 さ	203cm
排 気 量	3,200cc
初年度登録	H26.8



当別 50（高規格救急自動車）	
車 名	ニッサン
型 式	CBF-FPWGE50 改
長 さ	565cm
幅	191cm
高 さ	255cm
排 気 量	3,490cc
初年度登録	H22.3



当別 6（救助工作車）	
車 名	日野
型 式	KC-FH2KHCA 改
長 さ	916cm
幅	249cm
高 さ	343cm
排 気 量	13,260cc
初年度登録	H8.3

当別 22 （小型動力ポンプ付水槽車）	
車 名	日野
型 式	KL-FW1KXHA 改
長 さ	902cm
幅	249cm
高 さ	297cm
排 気 量	12,880cc
初年度登録	H16.1





(救助用ボート)

型 式	アキレスワークボート SU-14
長 さ	383cm
幅	178cm
深 さ	58cm
初年度登録	H21.10

(ボートトレーラー)

車 名	ミッドウエスト
型 式	BR1820S
長 さ	628cm
幅	230cm
高 さ	114cm
初年度登録	H15.5

新篠津消防署



建築年月日	昭和 49 年 6 月 10 日
構 造	鉄筋コンクリート造 2 階建

新篠津 3 (消防ポンプ自動車)

車 名	三菱
型 式	U-FG337C 改
長 さ	572cm
幅	188cm
高 さ	303cm
排 気 量	4,210cc
初年度登録	H5.10





新篠津 11 (指令車)	
車 名	トヨタ
型 式	GF-VZJ95W
長 さ	486cm
幅	182cm
高 さ	212cm
排 気 量	3,370cc
初年度登録	H14.7



(救助用ボート)	
型 式	アキレス SU-16 改
長 さ	439cm
幅	206cm
深 さ	63cm
初年度登録	H14.6

(ボートトレーラー)	
車 名	スポーツパル
長 さ	598cm
幅	221cm
高 さ	118cm
初年度登録	H14.7

新篠津 5 (高規格救急自動車)	
車 名	トヨタ
型 式	CBF-TRH226S
長 さ	564cm
幅	188cm
高 さ	248cm
排 気 量	2,690cc
初年度登録	R2.2



新篠津 22 (小型動力ポンプ付水槽車)	
車 名	日野
型 式	KC-FS4FRFA
長 さ	906cm
幅	249cm
高 さ	336cm
排 気 量	20,780cc
初年度登録	H10.12

消防団車両〈石狩消防団〉



石狩消防団 第1分団第1部
(消防ポンプ自動車)

車名	いすゞ
型式	P-NKR57E2N 改
長さ	516cm
幅	188cm
高さ	255cm
排気量	3,260cc
初年度登録	S59.10

石狩消防団 第1分団第2部
(消防ポンプ自動車)

車名	いすゞ
型式	K-TLD44 改
長さ	510cm
幅	188cm
高さ	255cm
排気量	2,770cc
初年度登録	S56.9



石狩消防団 第3分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車名	トヨタ
型式	BDG-XZU348
長さ	612cm
幅	194cm
高さ	240cm
排気量	4,000cc
初年度登録	H19.2

石狩消防団 第4分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車名	三菱
型式	KC-FE637E
長さ	611cm
幅	199cm
高さ	259cm
排気量	4,210cc
初年度登録	H8.3



石狩消防団 第5分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車名	トヨタ
型式	PB-XZU346
長さ	610cm
幅	190cm
高さ	267cm
排気量	4,890cc
初年度登録	H18.3

石狩消防団 第6分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車名	三菱
型式	KC-FG538E
長さ	615cm
幅	189cm
高さ	245cm
排気量	4,560cc
初年度登録	H9.3





石狩消防団 第 7 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	KC-BU212
長 さ	607cm
幅	199cm
高 さ	239cm
排 気 量	4,100cc
初年度登録	H10.3

石狩消防団 厚田分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	M-YY50 改
長 さ	461cm
幅	169cm
高 さ	223cm
排 気 量	1,620cc
初年度登録	S61.9



石狩消防団 第 8 分団
(消防防災車)

車 名	三菱
型 式	KC-FG538E
長 さ	615cm
幅	189cm
高 さ	245cm
排 気 量	4,560cc
初年度登録	H9.3



石狩消防団 浜益分団
群別分団
幌分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	M-YU60 改
長 さ	500cm
幅	169cm
高 さ	223cm
排 気 量	1,990cc
初年度登録	S62.10 (浜益分団) H1.10 (群別分団) H1.3 (幌分団)

石狩消防団 望来分団
聚富分団
発足分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	KK-LY280
長 さ	496cm
幅	169cm
高 さ	226cm
排 気 量	2,980cc
初年度登録	H14.12

石狩消防団 川下分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	U-LH85 改
長 さ	500cm
幅	169cm
高 さ	227cm
排 気 量	2,440cc
初年度登録	H2.9





石狩消防団 柏木分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車名	トヨタ
型式	M-RU22 改
長さ	493cm
幅	169cm
高さ	227cm
排気量	1,990cc
初年度登録	S57.9

石狩消防団 実田分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車名	トヨタ
型式	J-RY20 改
長さ	474cm
幅	169cm
高さ	225cm
排気量	1,580cc
初年度登録	S54.10



当別消防団 第1分団
(水槽付消防ポンプ自動車)

車名	いすゞ
型式	U-FRR32FBV 改
長さ	675cm
幅	227cm
高さ	263cm
排気量	7,120cc
初年度登録	H4.10



当別消防団 第2分団
(水槽付消防ポンプ自動車)

車名	日野
型式	KC-FD1JGBA 改
長さ	641cm
幅	228cm
高さ	255cm
排気量	7,960cc
初年度登録	H11.3

当別消防団 第3分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車名	トヨタ
型式	LDF-KDY281
長さ	469cm
幅	169cm
高さ	221cm
排気量	2,980cc
初年度登録	R2.12





当別消防団 第 4 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	M-YY51 改
長 さ	458cm
幅	169cm
高 さ	215cm
排 気 量	1,850cc
初年度登録	S63.8



当別消防団 第 7 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	M-YY51 改
長 さ	463cm
幅	169cm
高 さ	218cm
排 気 量	1,810cc
初年度登録	H1.10

当別消防団 第 5 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	M-YY51 改
長 さ	463cm
幅	169cm
高 さ	219cm
排 気 量	1,810cc
初年度登録	H2.11



当別消防団 第 8 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	LDF-KDY281
長 さ	469cm
幅	170cm
高 さ	219cm
排 気 量	2,980cc
初年度登録	R2.3



当別消防団 第 6 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	LDF-KDY281
長 さ	469cm
幅	169cm
高 さ	217cm
排 気 量	2,980cc
初年度登録	R2.2

当別消防団 第 9 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	LDF-KDY281
長 さ	469cm
幅	169cm
高 さ	221cm
排 気 量	2,980cc
初年度登録	R3.2



消防団車両〈新篠津消防団〉



新篠津消防団 中央分団
(水槽付消防ポンプ自動車)

車 名	日野
型 式	QDG-FR1APEA 改
長 さ	920cm
幅	249cm
高 さ	339cm
排 気 量	8,860cc
初年度登録	H28.2

新篠津消防団 中央分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	T-YH81 改
長 さ	450cm
幅	169cm
高 さ	223cm
排 気 量	1,810cc
初年度登録	H5.8



新篠津消防団 第 1 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	三菱
型 式	U-FG337B 改
長 さ	521cm
幅	188cm
高 さ	269cm
排 気 量	4,210cc
初年度登録	H2.3

新篠津消防団 第 3 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	KC-BU172
長 さ	554cm
幅	188cm
高 さ	274cm
排 気 量	4,100cc
初年度登録	H10.9



新篠津消防団 第 4 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	トヨタ
型 式	BDG-XZU378
長 さ	548cm
幅	189cm
高 さ	246cm
排 気 量	4,000cc
初年度登録	H21.8

新篠津消防団 第 5 分団
(小型動力ポンプ付積載車)

車 名	日野
型 式	KK-XZU372M
長 さ	548cm
幅	188cm
高 さ	254cm
排 気 量	4,610cc
初年度登録	H12.7



編集後記

このたび、組合消防発足 50 周年という節目の年を迎えるにあたり、記念誌を作成いたしました。

編纂に際しましては、昭和 46 年 4 月の開設から現在までの歩みや、組合消防創設 30 周年以降（平成 13 年）を中心に組織や装備の移り変わり、災害対応などの写真や資料収集等に取り組み、本記念誌の完成となりました。

本誌の内容につきまして、出来事の記録や写真も少ない中での作業であり意を尽くせなかったところもありますので、乱筆のほどご容赦いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、本誌の編集に際しまして、ご協力を賜りました皆様方に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援、ご指導いただきますようお願いをいたしまして、あとがきとさせていただきます。

石狩北部地区消防事務組合
創設 50 周年記念事業実行委員会
委員長 新岡 研一郎

発行日	令和 3 年（2021 年）11 月
編 集	石狩北部地区消防事務組合創設 50 周年記念事業実行委員会
発 行	石狩北部消防事務組合消防本部 〒 061-3211 石狩市花川北 1 条 1 丁目 2 番地 3
印 刷	岩橋印刷株式会社

1971–2021